

施設から大学等へ進学した学生の
自立支援に関する調査
調査結果報告書

令和5年9月

目次

I	調査の概要	3
1.	調査の目的	3
2.	調査方法	3
3.	回収状況	3
4.	調査結果の表示方法	3
II	調査結果	4
A.	施設の基本情報	4
B.	施設の取り組み リービングケアの体制と支援	23
C.	施設の取り組み アフターケアの体制と支援	29
D.	個々の進学者の状況	42

I 調査の概要

1. 調査の目的

社会的養護から進学した学生が、大学等の高等教育機関の学業を成就し、将来にわたる安定した社会的自立を果たせるように、児童養護施設の進学に向けた取り組み、入学後の進学先の支援の現状（施設等との連携を含む）を調査し、大学等の教育支援のあり方や今後の方向性を示すことを目的とし、調査を実施するものです。

2. 調査方法

調査対象：児童養護施設 605 箇所

調査期間：令和5年6月30日（金）～8月31日（木）

調査方法：郵送配布・郵送回収（WEB回収併用）

3. 回収状況

有効回答数：187 件

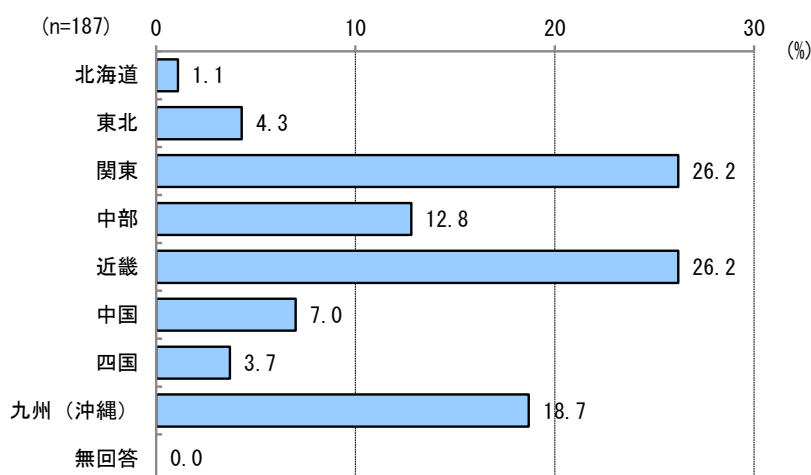
4. 調査結果の表示方法

- （1）回答結果の割合「%」は有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- （2）図表等の「n (NUMBER OF CASE)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しており、「MA (Multiple Answer) %」という表示がある場合は、複数回答を依頼した質問であることを表しており、「3LA% (3 Limited Answer)」という表示がある場合は、あてはまるものを3つ以内、回答を依頼した質問であることを表しています。
- （3）集計表の上段は回答件数を示しており、下段は横構成比を表しています。
- （4）回答者数（n）が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、集計結果に偏りがみられるため、解釈には注意する必要があります。

Ⅱ 調査結果

A. 施設の基本情報

A-1 貴施設の所在地



貴施設の所在地については、「関東」、「近畿」がそれぞれ 26.2%と最も多く、次いで、「九州（沖縄）」が 18.7%、「中部」が 12.8%、「中国」が 7.0%、「東北」が 4.3%となっています。

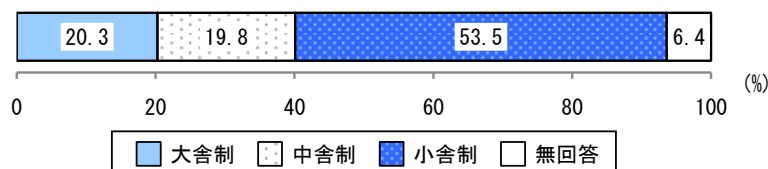
【参考：都道府県別】

	北海道		東北					関東									
全 体	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	静岡県
	187	2	2	1	-	1	2	2	4	2	3	4	7	12	6	2	5
	100.0	1.1	1.1	0.5	-	0.5	1.1	1.1	2.1	1.1	1.6	2.1	3.7	6.4	3.2	1.1	2.7
中部						近畿							中国				
富山県	石川県	福井県	長野県	岐阜県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
-	1	4	6	3	10	4	2	3	20	13	2	5	2	-	5	2	-
-	0.5	2.1	3.2	1.6	5.3	2.1	1.1	1.6	10.7	7.0	1.1	2.7	1.1	-	2.7	1.1	2.1
四国				九州（沖縄）													
徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答					
-	3	3	1	9	1	3	6	4	1	7	4	-					
-	1.6	1.6	0.5	4.8	0.5	1.6	3.2	2.1	0.5	3.7	2.1	-					

A-2 生活の形態と児童の定員数

・施設種別（規模）

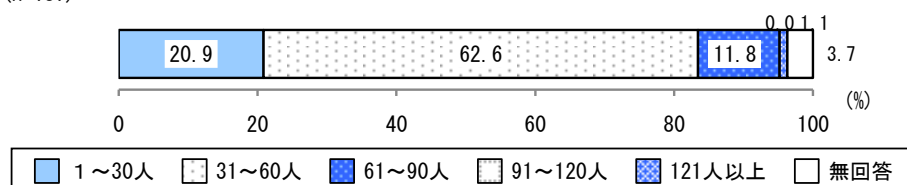
(n=187)



施設種別については、「小舎制」が 53.5%と最も多く、次いで、「大舎制」が 20.3%、「中舎制」が 19.8%となっています。

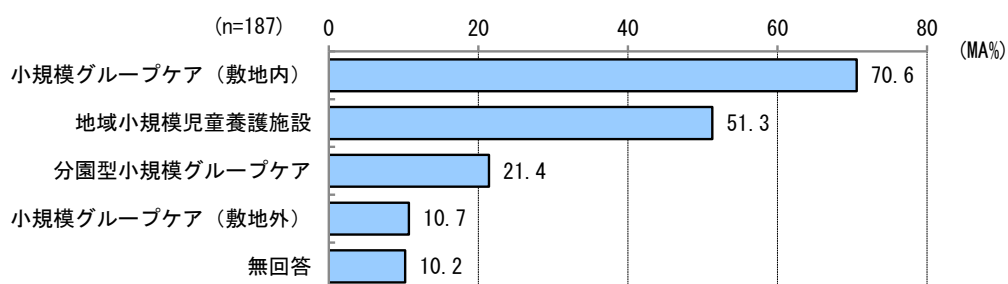
・児童定員数

(n=187)



児童定員数については、「31～60人」が 62.6%と最も多く、次いで、「1～30人」が 20.9%、「61～90人」が 11.8%、「121人以上」が 1.1%となっています。

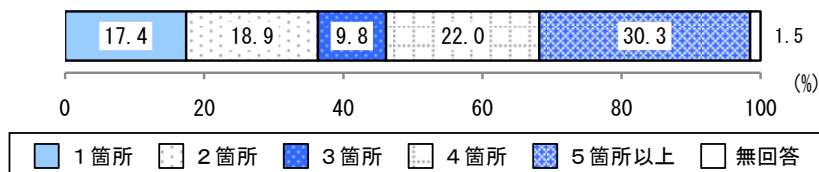
・施設種別（種類）



施設種別については、「小規模グループケア（敷地内）」が 70.6%と最も多く、次いで、「地域小規模児童養護施設」が 51.3%、「分園型小規模グループケア」が 21.4%、「小規模グループケア（敷地外）」が 10.7%となっています。

・小規模グループケア（敷地内）箇所数

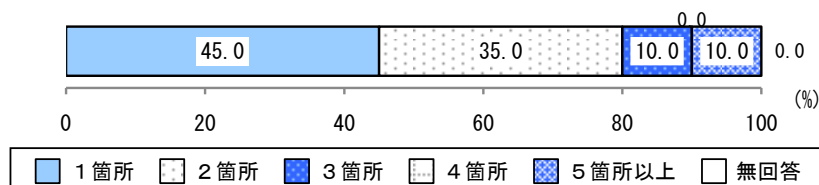
(n=132)



小規模グループケア（敷地内）箇所数については、「5 箇所以上」が 30.3%と最も多く、次いで、「4 箇所」が 22.0%、「2 箇所」が 18.9%、「1 箇所」が 17.4%、「3 箇所」が 9.8%となっています。

・小規模グループケア（敷地外）箇所数

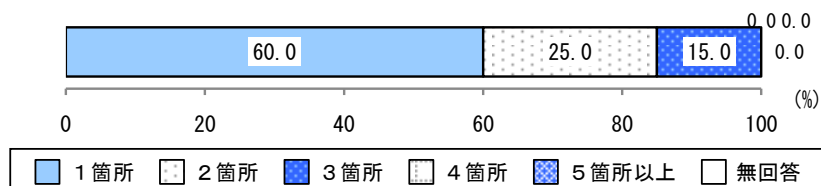
(n=20)



小規模グループケア（敷地外）箇所数については、「1 箇所」が 45.0%と最も多く、次いで、「2 箇所」が 35.0%、「3 箇所」、「5 箇所以上」がそれぞれ 10.0%となっています。

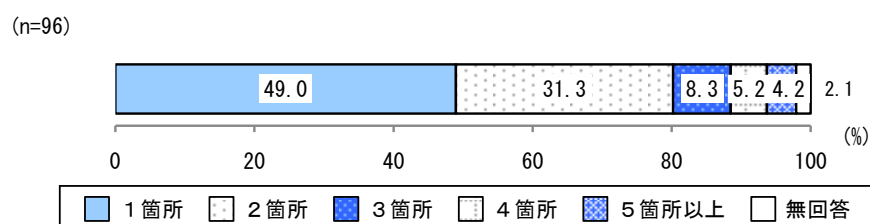
・分園型小規模グループケア箇所数

(n=40)



分園型小規模グループケア箇所数については、「1 箇所」が 60.0%と最も多く、次いで、「2 箇所」が 25.0%、「3 箇所」が 15.0%となっています。

・ 地域小規模児童養護施設箇所数



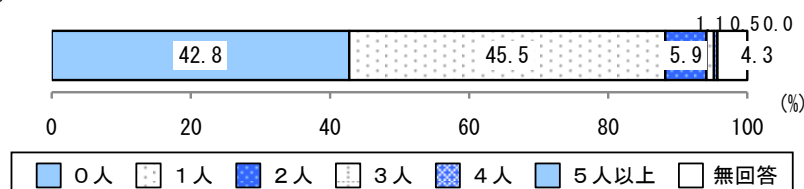
地域小規模児童養護施設箇所数については、「1 箇所」が 49.0%と最も多く、次いで、「2 箇所」が 31.3%、「3 箇所」が 8.3%、「4 箇所」が 5.2%、「5 箇所以上」が 4.2%となっています。

A-3 貴施設内の職員配置について

【自立支援相談員】

・自立支援相談員の人数

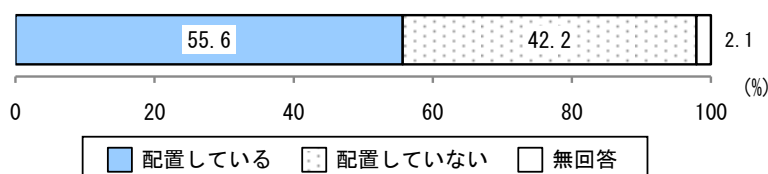
(n=187)



自立支援専門相談員（人数）については、「1人」が45.5%と最も多く、次いで、「0人」が42.8%、「2人」が5.9%、「3人」が1.1%、「4人」が0.5%となっています。

・自立支援相談員の配置の有無

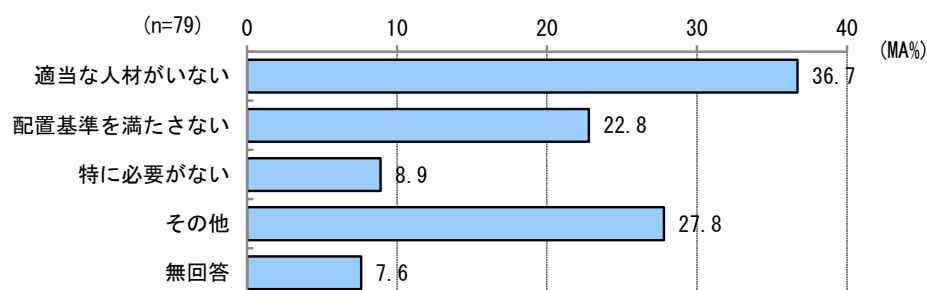
(n=187)



自立支援専門員（配置有無）については、「配置している」が55.6%と最も多く、次いで、「配置していない」が42.2%となっています。

・自立支援相談員が未配置の理由

（自立支援相談員の配置の有無で「配置していない」と回答した方のみ）

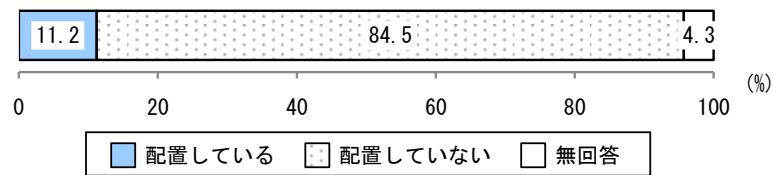


自立支援専門員未配置理由については、「適当な人材がない」が36.7%と最も多く、次いで、「配置基準を満たさない」が22.8%、「特に必要がない」が8.9%となっています。

【職業指導員】

・職業指導員の配置の有無

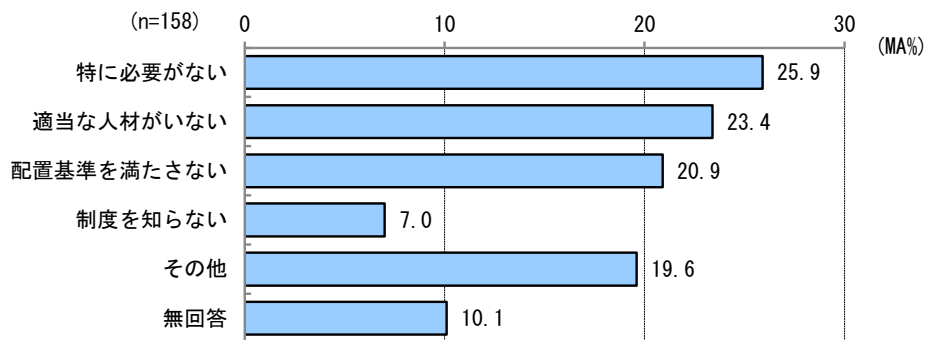
(n=187)



職業指導員（配置有無）については、「配置していない」が84.5%と最も多く、次いで、「配置している」が11.2%となっています。

・職業指導員が未配置の理由

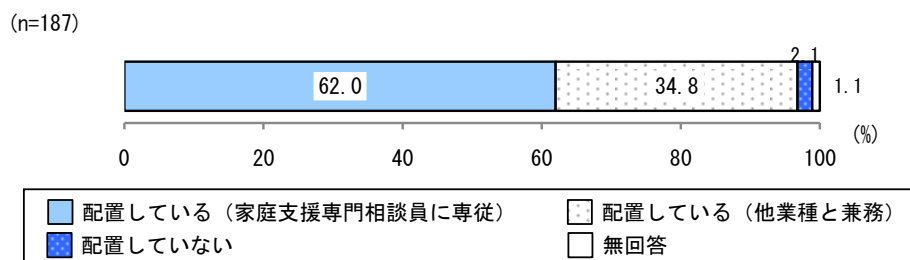
（職業指導員の配置の有無で「配置していない」と回答した方のみ）



職業指導員未配置理由については、「特に必要がない」が25.9%と最も多く、次いで、「適当な人材がない」が23.4%、「配置基準を満たさない」が20.9%、「制度を知らない」が7.0%となっています。

【家庭支援専門相談員】

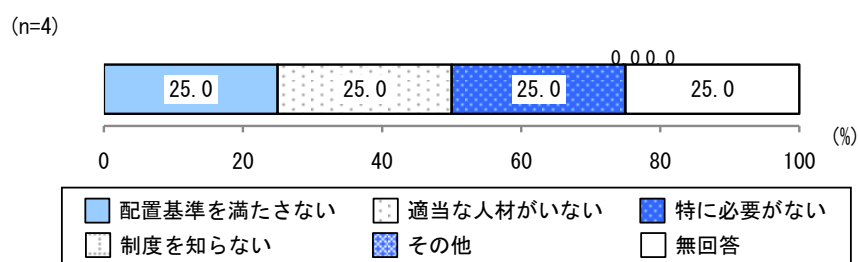
・家庭支援専門相談員の配置の有無



家庭支援専門相談員（配置有無）については、「配置している（家庭支援専門相談員に専従）」が 62.0%と最も多く、次いで、「配置している（他業種と兼務）」が 34.8%、「配置していない」が 2.1%となっています。

・家庭支援専門相談員が未配置の理由

（家庭支援専門相談員の配置の有無で「配置していない」と回答した方のみ）

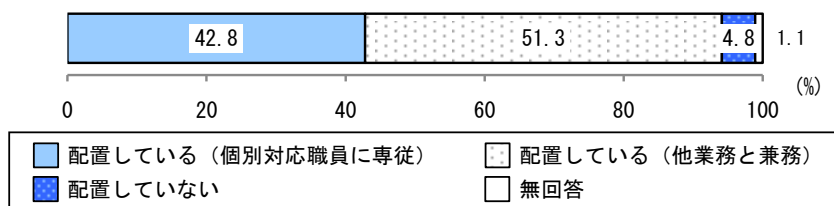


家庭支援専門相談員未配置理由については、「配置基準を満たさない」、「適当な人材がいない」、「特に必要がない」がそれぞれ 25.0%と最も多く、次いでとなっています。

【個別対応職員】

・個別対応職員の配置の有無

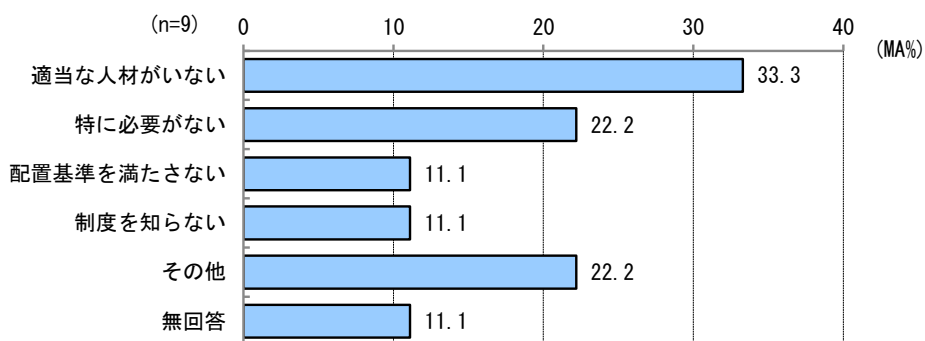
(n=187)



個別対応職員（配置有無）については、「配置している（他業務と兼務）」が51.3%と最も多く、次いで、「配置している（個別対応職員に専従）」が42.8%、「配置していない」が4.8%となっています。

・個別対応職員が未配置の理由

（個別対応職員の配置の有無で「配置していない」と回答した方のみ）

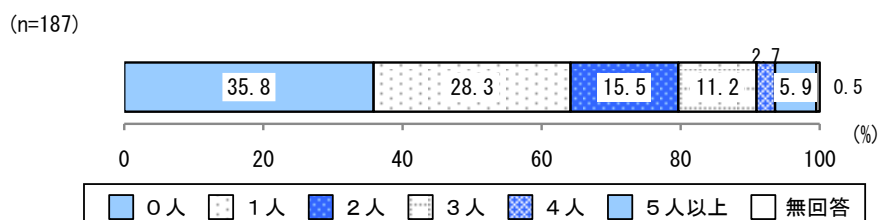


個別対応職員未配置理由については、「適当な人材がない」が33.3%と最も多く、次いで、「特に必要がない」が22.2%、「配置基準を満たさない」、「制度を知らない」がそれぞれ11.1%となっています。

A-4 18歳（高校卒業後）の進路状況について

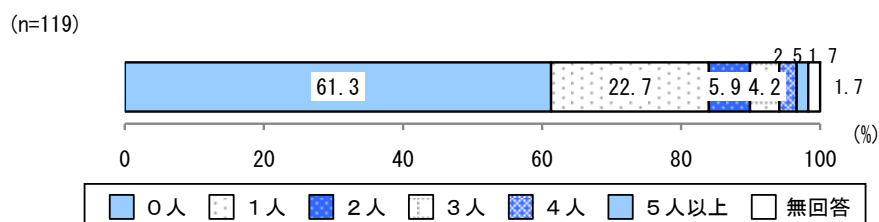
2022年度

【2022年進学者合計数】



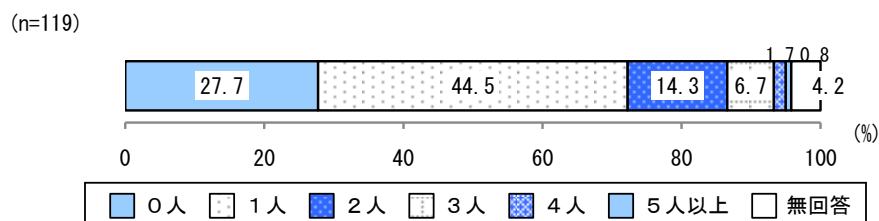
2022年進学者合計数については、「0人」が35.8%と最も多く、次いで、「1人」が28.3%、「2人」が15.5%、「3人」が11.2%、「5人以上」が5.9%となっています。

【2022年進学者内、措置延長合計数】



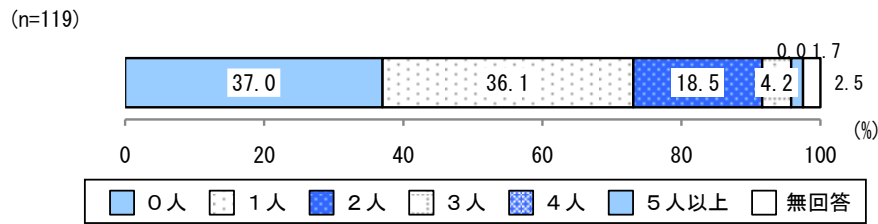
2022年進学者内、措置延長合計数については、「0人」が61.3%と最も多く、次いで、「1人」が22.7%、「2人」が5.9%、「3人」が4.2%、「4人」が2.5%となっています。

【2022年進学者内、大学・短大進学者数合計数】



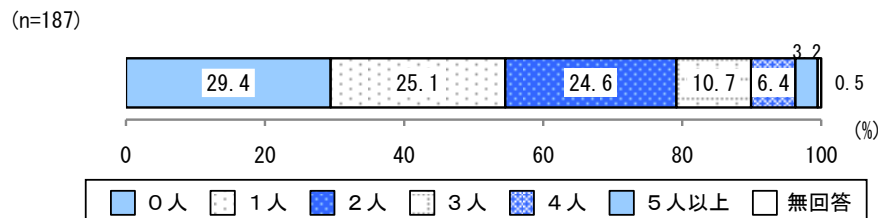
2022年進学者内、大学・短大進学者数合計数については、「1人」が44.5%と最も多く、次いで、「0人」が27.7%、「2人」が14.3%、「3人」が6.7%、「4人」が1.7%となっています。

【2022 年進学者内、専門学校等進学者数合計数】



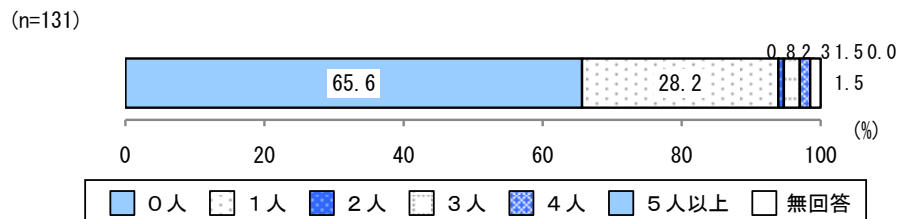
2022 年進学者内、専門学校等進学者数合計数については、「0人」が 37.0%と最も多く、次いで、「1人」が 36.1%、「2人」が 18.5%、「3人」が 4.2%、「5人以上」が 1.7%となっています。

【2022 年就職者合計数】



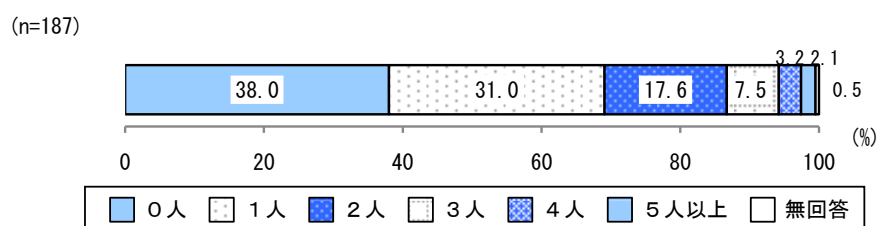
2022 年就職者合計数については、「0人」が 29.4%と最も多く、次いで、「1人」が 25.1%、「2人」が 24.6%、「3人」が 10.7%、「4人」が 6.4%となっています。

【2022 年就職者内、措置延長合計数】



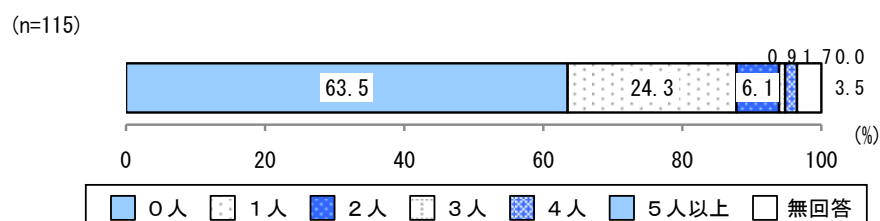
2022 年就職者内、措置延長合計数については、「0人」が 65.6%と最も多く、次いで、「1人」が 28.2%、「3人」が 2.3%、「4人」が 1.5%、「2人」が 0.8%となっています。

【2021 年進学者合計数】



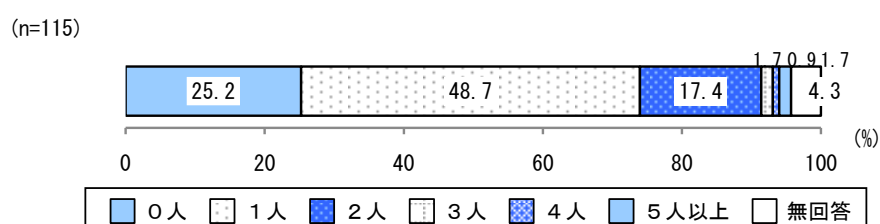
2021 年進学者合計数については、「0人」が 38.0%と最も多く、次いで、「1人」が 31.0%、「2人」が 17.6%、「3人」が 7.5%、「4人」が 3.2%となっています。

【2021 年進学者内、措置延長合計数】



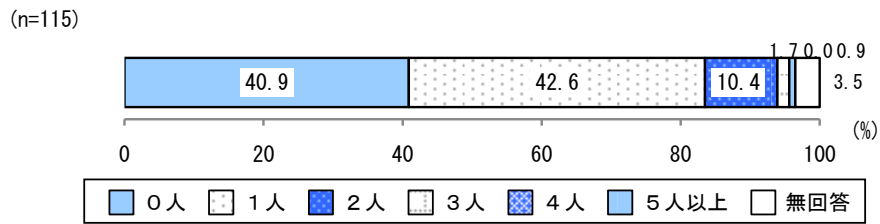
2021 年進学者内、措置延長合計数については、「0人」が 63.5%と最も多く、次いで、「1人」が 24.3%、「2人」が 6.1%、「4人」が 1.7%、「3人」が 0.9%となっています。

【2021 年進学者内、大学・短大進学者数合計数】



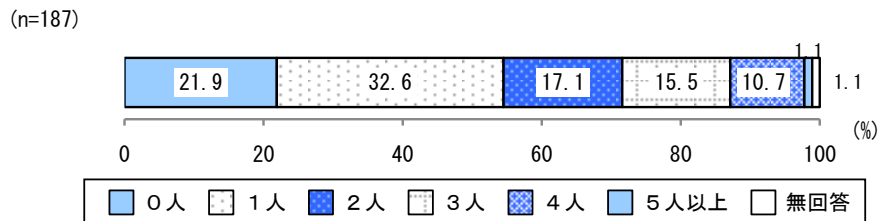
2021 年進学者内、大学・短大進学者数合計数については、「1人」が 48.7%と最も多く、次いで、「0人」が 25.2%、「2人」が 17.4%、「3人」、「5人以上」がそれぞれ 1.7%、「4人」が 0.9%となっています。

【2021 年進学者内、専門学校等進学者数合計数】



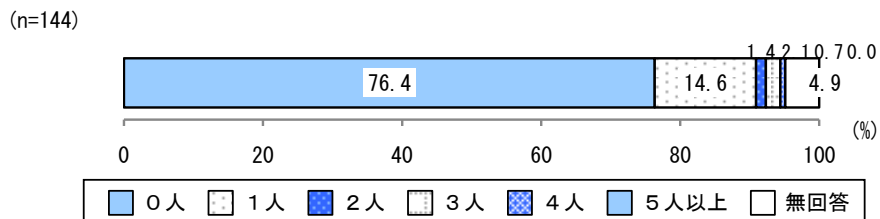
2021 年進学者内、専門学校等進学者数合計数については、「1人」が42.6%と最も多く、次いで、「0人」が40.9%、「2人」が10.4%、「3人」が1.7%、「5人以上」が0.9%となっています。

【2021 年就職者合計数】



2021 年就職者合計数については、「1人」が32.6%と最も多く、次いで、「0人」が21.9%、「2人」が17.1%、「3人」が15.5%、「4人」が10.7%となっています。

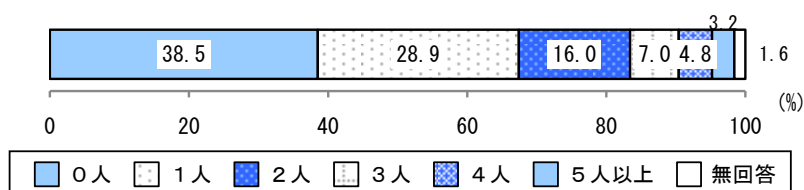
【2021 年就職者内、措置延長合計数】



2021 年就職者内、措置延長合計数については、「0人」が76.4%と最も多く、次いで、「1人」が14.6%、「3人」が2.1%、「2人」が1.4%、「4人」が0.7%となっています。

【2020 年進学者合計数】

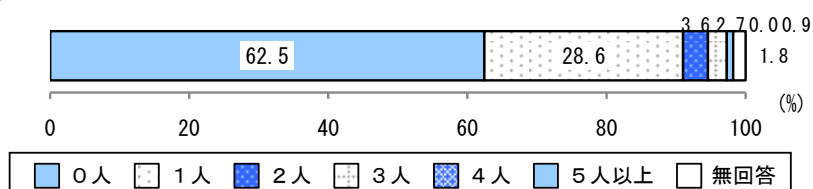
(n=187)



2020 年進学者合計数については、「0人」が 38.5%と最も多く、次いで、「1人」が 28.9%、「2人」が 16.0%、「3人」が 7.0%、「4人」が 4.8%となっています。

【2020 年進学者内、措置延長合計数】

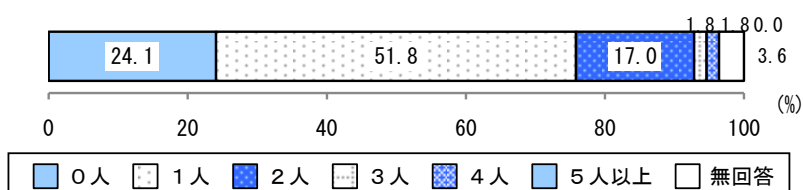
(n=112)



2020 年進学者内、措置延長合計数については、「0人」が 62.5%と最も多く、次いで、「1人」が 28.6%、「2人」が 3.6%、「3人」が 2.7%、「5人以上」が 0.9%となっています。

【2020 年進学者内、大学・短大進学者数合計数】

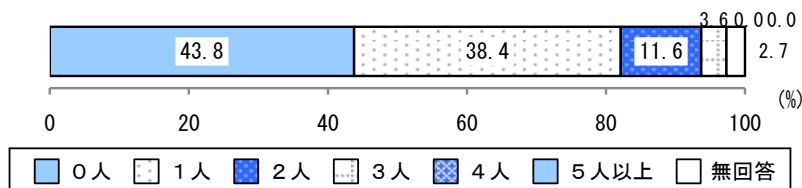
(n=112)



2020 年進学者内、大学・短大進学者数合計数については、「1人」が 51.8%と最も多く、次いで、「0人」が 24.1%、「2人」が 17.0%、「3人」、「4人」がそれぞれ 1.8%となっています。

【2020 年進学者内、専門学校等進学者数合計数】

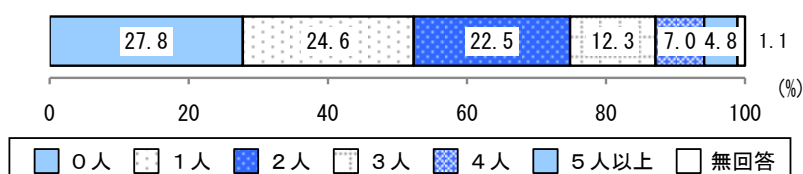
(n=112)



2020 年進学者内、専門学校等進学者数合計数については、「0人」が 43.8%と最も多く、次いで、「1人」が 38.4%、「2人」が 11.6%、「3人」が 3.6%となっています。

【2020 年就職者合計数】

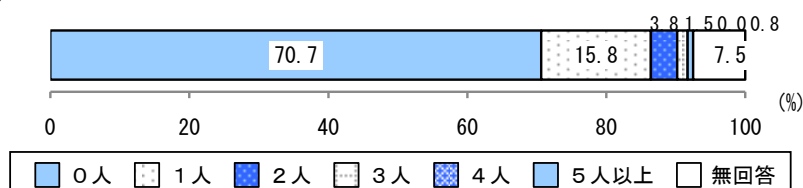
(n=187)



2020 年就職者合計数については、「0人」が 27.8%と最も多く、次いで、「1人」が 24.6%、「2人」が 22.5%、「3人」が 12.3%、「4人」が 7.0%となっています。

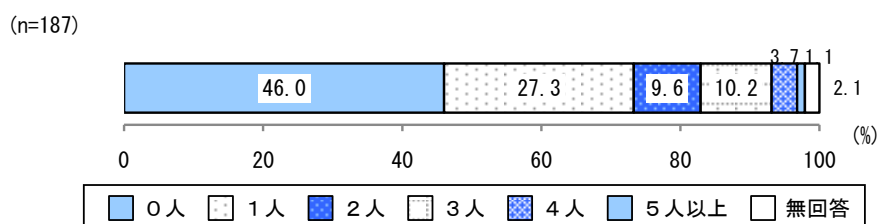
【2020 年就職者内、措置延長合計数】

(n=133)



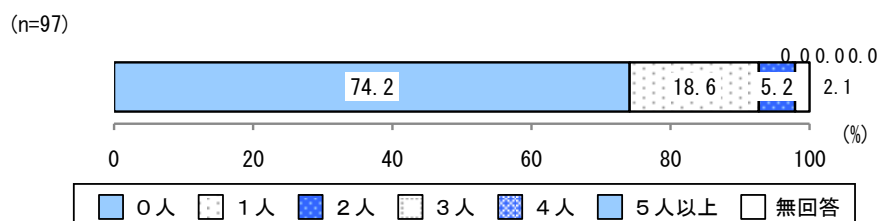
2020 年就職者内、措置延長合計数については、「0人」が 70.7%と最も多く、次いで、「1人」が 15.8%、「2人」が 3.8%、「3人」が 1.5%、「5人以上」が 0.8%となっています。

【2019 年進学者合計数】



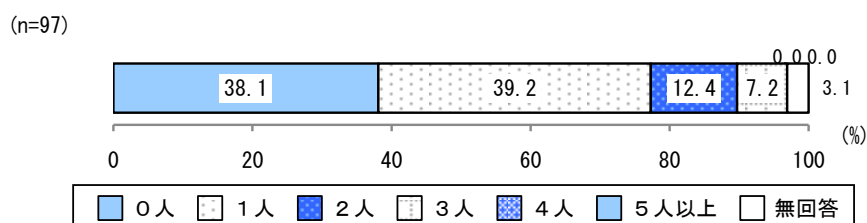
2019 年進学者合計数については、「0人」が46.0%と最も多く、次いで、「1人」が27.3%、「3人」が10.2%、「2人」が9.6%、「4人」が3.7%となっています。

【2019 年進学者内、措置延長合計数】



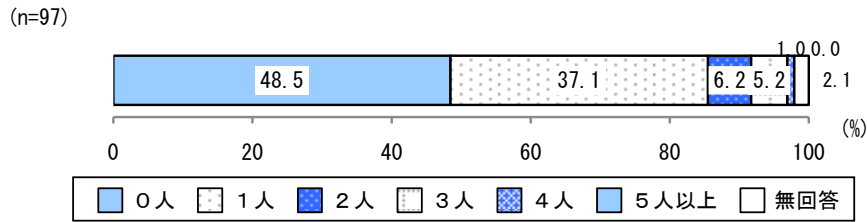
2019 年進学者内、措置延長合計数については、「0人」が74.2%と最も多く、次いで、「1人」が18.6%、「2人」が5.2%となっています。

【2019 年進学者内、大学・短大進学者数合計数】



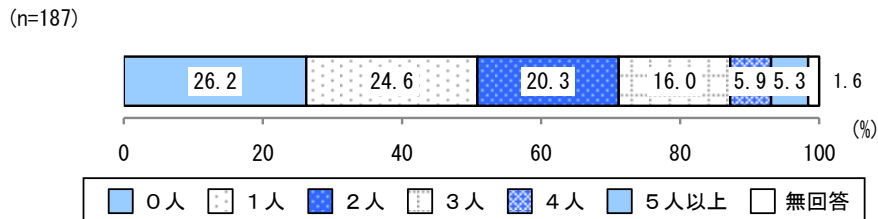
2019 年進学者内、大学・短大進学者数合計数については、「1人」が39.2%と最も多く、次いで、「0人」が38.1%、「2人」が12.4%、「3人」が7.2%となっています。

【2019 年進学者内、専門学校等進学者数合計数】



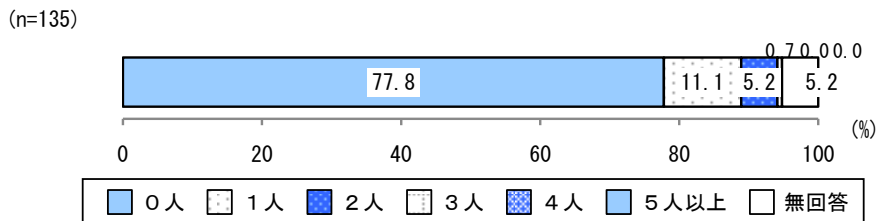
2019 年進学者内、専門学校等進学者数合計数については、「0人」が48.5%と最も多く、次いで、「1人」が37.1%、「2人」が6.2%、「3人」が5.2%、「4人」が1.0%となっています。

【2019 年就職者合計数】



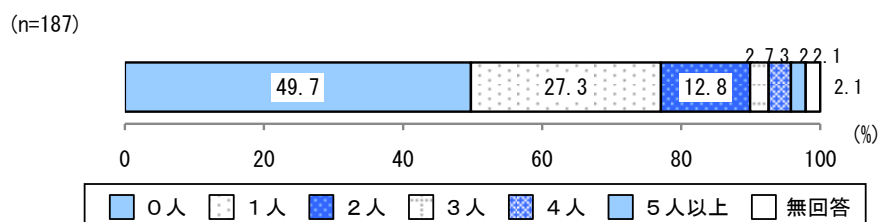
2019 年就職者合計数については、「0人」が26.2%と最も多く、次いで、「1人」が24.6%、「2人」が20.3%、「3人」が16.0%、「4人」が5.9%となっています。

【2019 年就職者内、措置延長合計数】



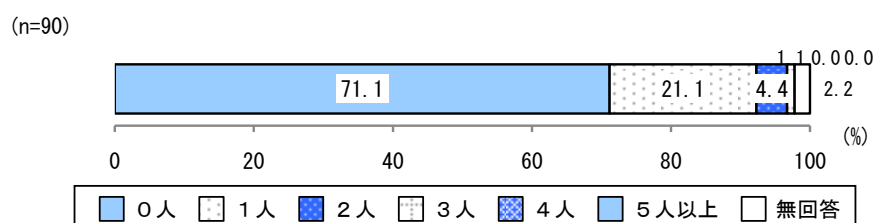
2019 年就職者内、措置延長合計数については、「0人」が77.8%と最も多く、次いで、「1人」が11.1%、「2人」が5.2%、「3人」が0.7%となっています。

【2018 年進学者合計数】



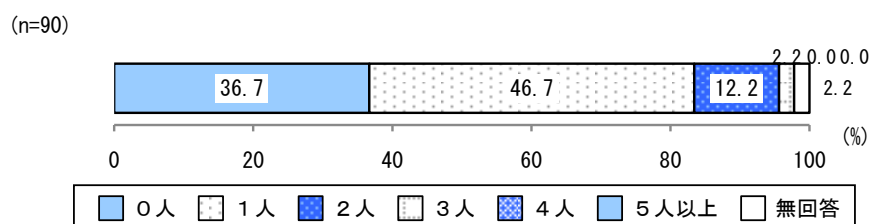
2018 年進学者合計数については、「0 人」が 49.7%と最も多く、次いで、「1 人」が 27.3%、「2 人」が 12.8%、「4 人」が 3.2%、「3 人」が 2.7%となっています。

【2018 年進学者内、措置延長合計数】



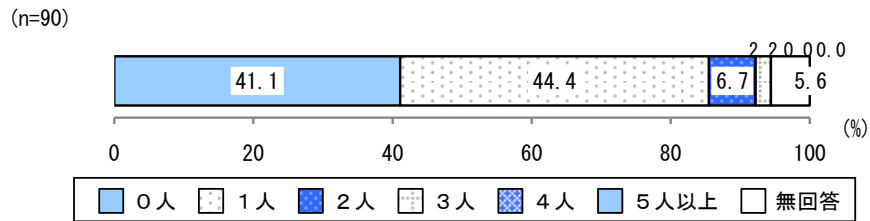
2018 年進学者内、措置延長合計数については、「0 人」が 71.1%と最も多く、次いで、「1 人」が 21.1%、「2 人」が 4.4%、「3 人」が 1.1%となっています。

【2018 年進学者内、大学・短大進学者数合計数】



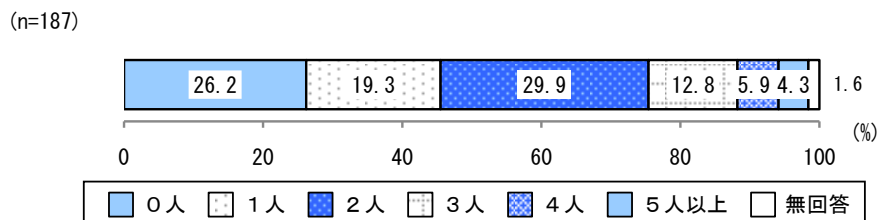
2018 年進学者内、大学・短大進学者数合計数については、「1 人」が 46.7%と最も多く、次いで、「0 人」が 36.7%、「2 人」が 12.2%、「3 人」が 2.2%となっています。

【2018 年進学者内、専門学校等進学者数合計数】



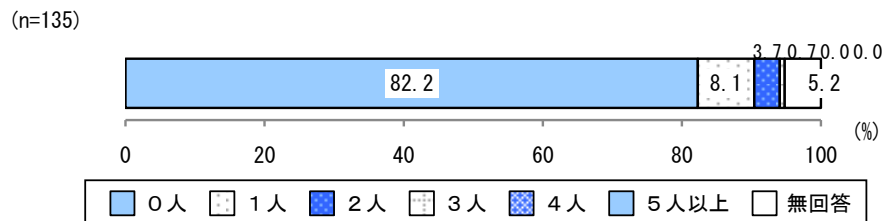
2018 年進学者内、専門学校等進学者数合計数については、「1人」が 44.4%と最も多く、次いで、「0人」が 41.1%、「2人」が 6.7%、「3人」が 2.2%となっています。

【2018 年就職者合計数】



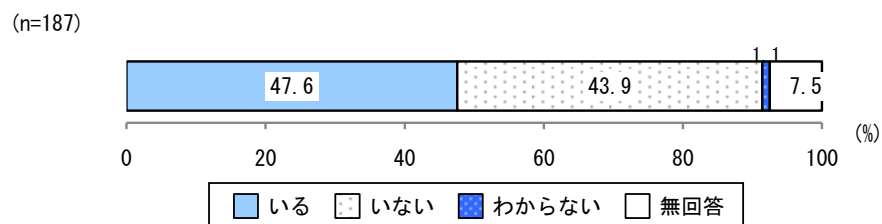
2018 年就職者合計数については、「2人」が 29.9%と最も多く、次いで、「0人」が 26.2%、「1人」が 19.3%、「3人」が 12.8%、「4人」が 5.9%となっています。

【2018 年就職者内、措置延長合計数】



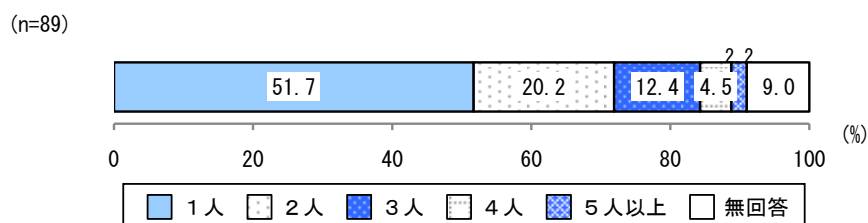
2018 年就職者内、措置延長合計数については、「0人」が 82.2%と最も多く、次いで、「1人」が 8.1%、「2人」が 3.7%、「3人」が 0.7%となっています。

A-5 進学先を中途退学した児童有無



進学先を中途退学した児童有無については、「いる」が47.6%と最も多く、次いで、「いない」が43.9%となっています。

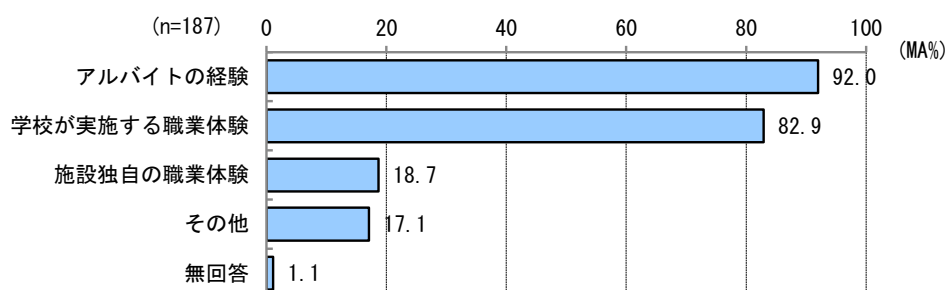
【進学先を中途退学した児童の人数】



進学先を中途退学した児童の人数については、「1人」が51.7%と最も多く、次いで、「2人」が20.2%、「3人」が12.4%、「4人」が4.5%、「5人以上」が2.2%となっています。

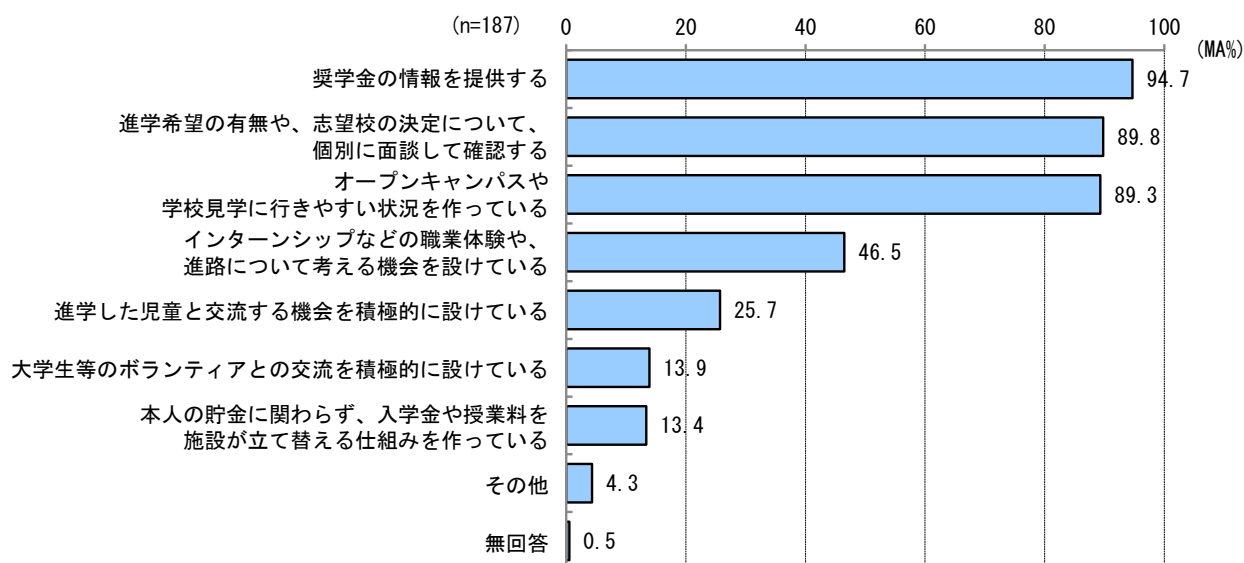
B. 施設の取り組み リービングケアの体制と支援

B-1 児童が働く体験をする機会について



児童が働く体験をする機会については、「アルバイトの経験」が92.0%と最も多く、次いで、「学校が実施する職業体験」が82.9%、「施設独自の職業体験」が18.7%となっています。

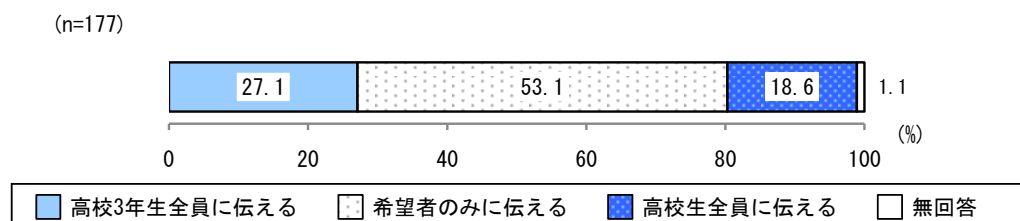
B-2 貴施設で取り組まれている進路指導について



貴施設で取り組まれている進路指導については、「奨学金の情報を提供する」が94.7%と最も多く、次いで、「進学希望の有無や、志望校の決定について、個別に面談して確認する」が89.8%、「オープンキャンパスや学校見学に行きやすい状況を作っている」が89.3%、「インターンシップなどの職業体験や、進路について考える機会を設ける」が46.5%、「進学した児童と交流する機会を積極的に設けている」が25.7%となっています。

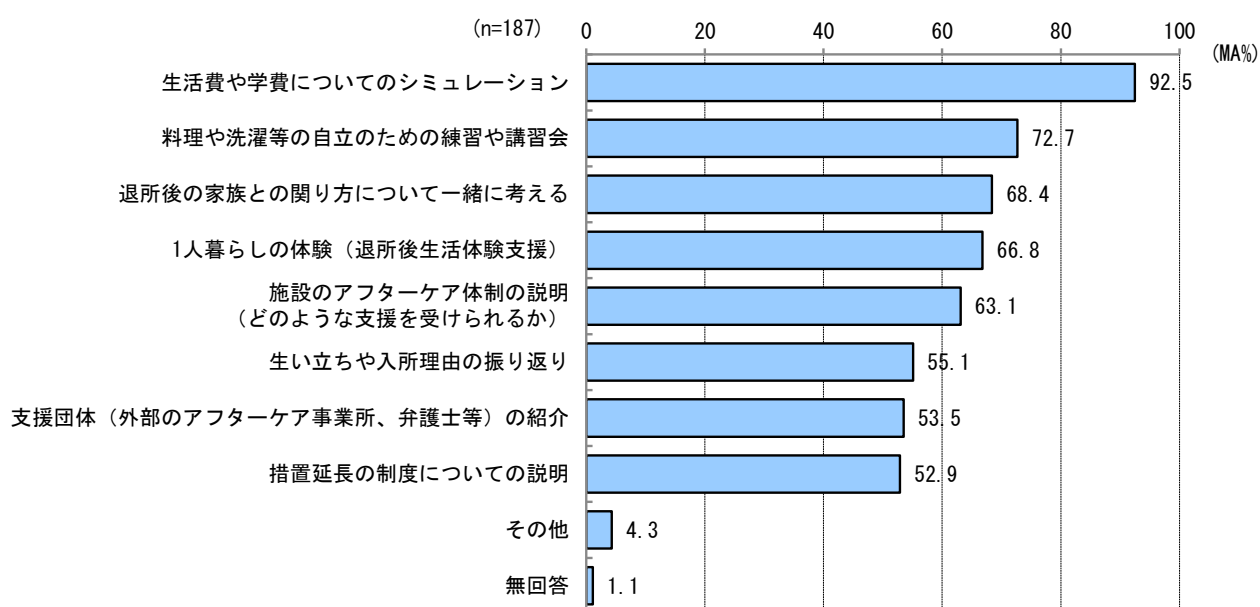
B-2-1 情報提供を行う際の対応について

(B-2で「奨学金の情報提供をする」と回答した方のみ)



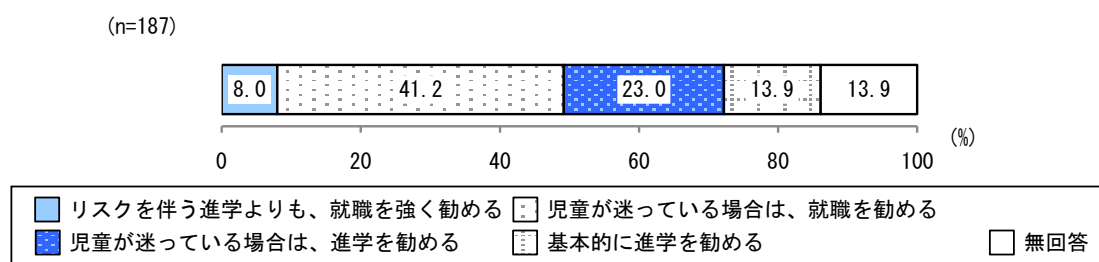
情報提供を行う際の対応については、「希望者のみに伝える」が53.1%と最も多く、次いで、「高校3年生全員に伝える」が27.1%、「高校生全員に伝える」が18.6%となっています。

B-3 退所の前に行う自立支援について



退所の前に行う自立支援については、「生活費や学費についてのシミュレーション」が92.5%と最も多く、次いで、「料理や洗濯等の自立のための練習や講習会」が72.7%、「退所後の家族との関り方について一緒に考える」が68.4%、「1人暮らしの体験（退所後生活体験支援）」が66.8%、「施設のアフターケア体制の説明（どのような支援を受けられるか）」が63.1%となっています。

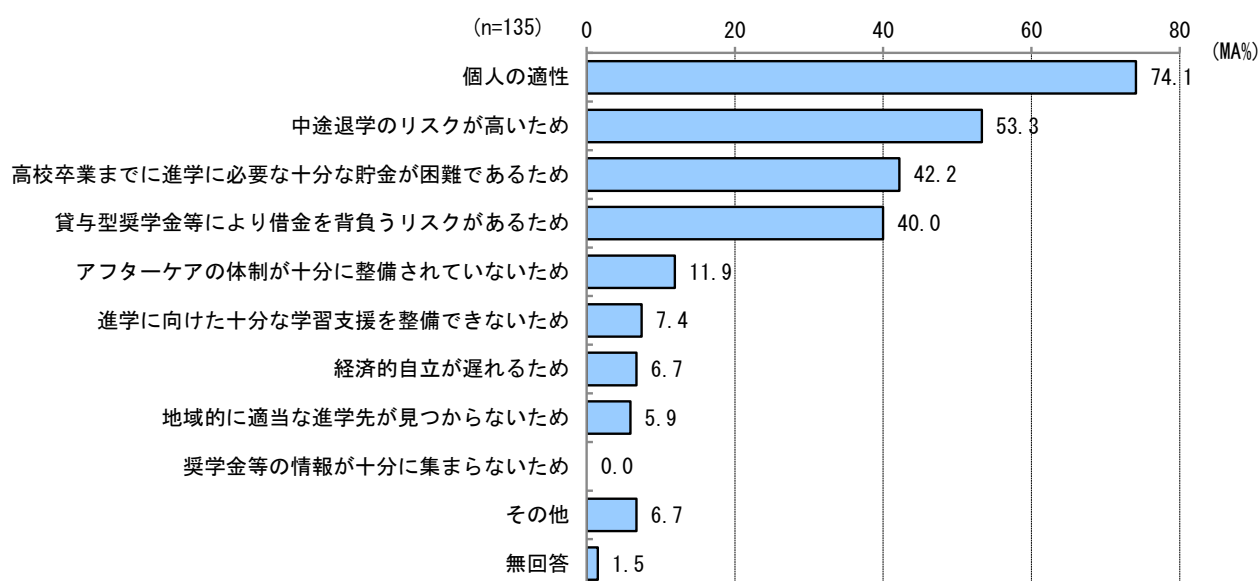
B-4 高校卒業後の進学に対する貴施設の意向について



高校卒業後の進学に対する貴施設の意向については、「児童が迷っている場合は、就職を勧める」が41.2%と最も多く、次いで、「児童が迷っている場合は、進学を勧める」が23.0%、「基本的に進学を勧める」が13.9%、「リスクを伴う進学よりも、就職を強く勧める」が8.0%となっています。

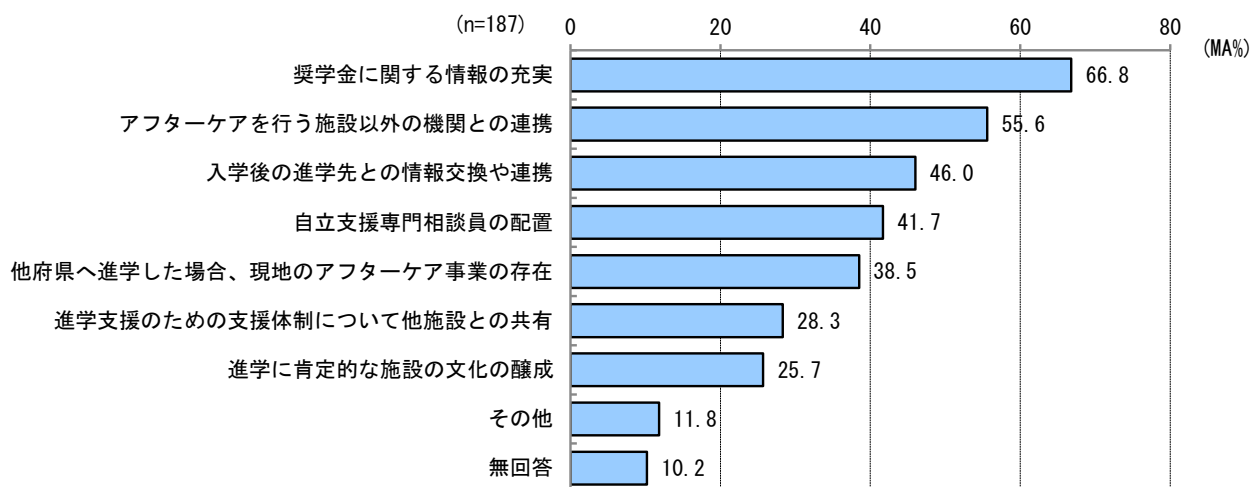
B-5 進学を積極的に勧めにくい理由について

(B-4で「リスクを伴う進学よりも、就職を強く勧める」「児童が迷っている場合は、進学を勧める」「児童が迷っている場合は、就職を勧める」と回答した方のみ)



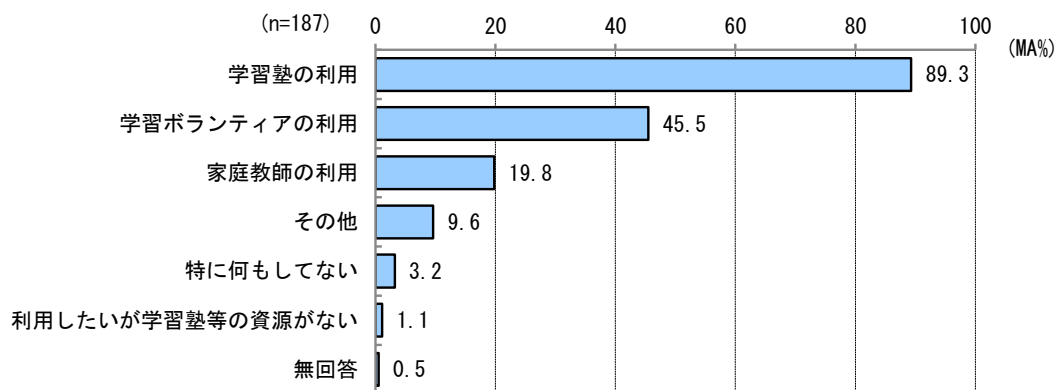
進学を積極的に勧めにくい理由については、「個人の適性」が74.1%と最も多く、次いで、「中途退学の高リスクのため」が53.3%、「高校卒業までに進学に必要な十分な貯金が困難であるため」が42.2%、「貸与型奨学金等により借金を背負うリスクがあるため」が40.0%、「アフターケアの体制が十分に整備されていないため」が11.9%となっています。

B－6 進学を積極的に勧めるために必要なことについて



進学を積極的に勧めるために必要なことについては、「奨学金に関する情報の充実」が66.8%と最も多く、次いで、「アフターケアを行う施設以外の機関との連携」が55.6%、「入学後の進学先との情報交換や連携」が46.0%、「自立支援専門相談員の配置」が41.7%、「他府県へ進学した場合、現地のアフターケア事業の存在」が38.5%となっています。

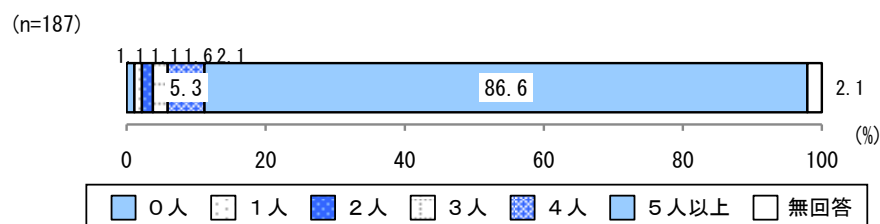
B－7 中学生に対する学習支援の状況について



中学生に対する学習支援の状況については、「学習塾の利用」が89.3%と最も多く、次いで、「学習ボランティアの利用」が45.5%、「家庭教師の利用」が19.8%となっています。

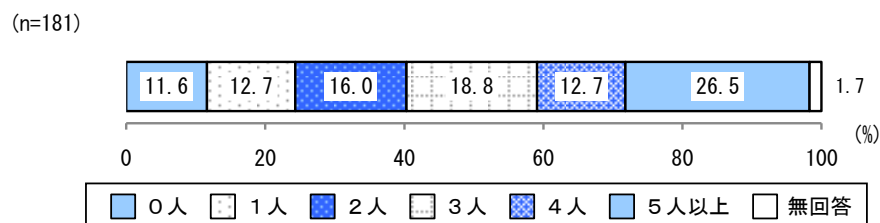
B－8 措置費における学習塾費の利用状況について

【令和4年度の貴施設中学生人数】



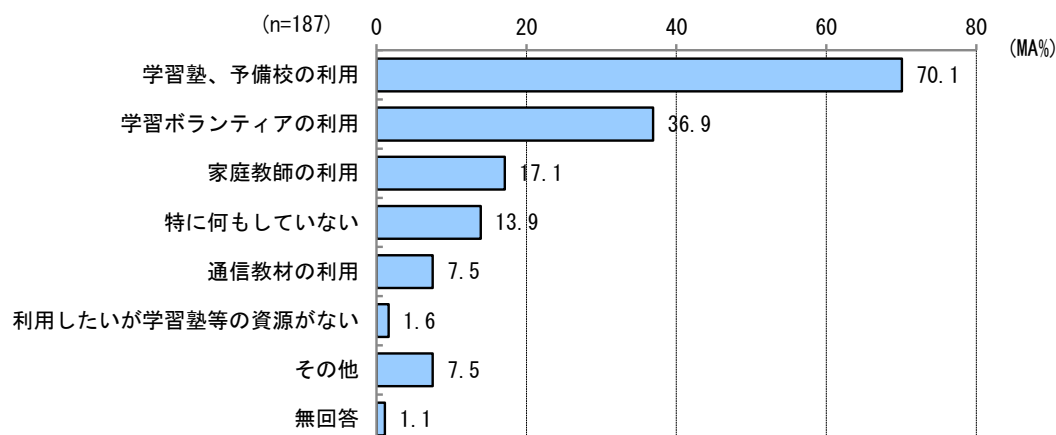
令和4年度の貴施設中学生人数については、「5人以上」が86.6%と最も多く、次いで、「4人」が5.3%、「3人」が2.1%、「2人」が1.6%、「0人」、「1人」がそれぞれ1.1%となっています。

【令和4年度の貴施設中学生の学習支援利用人数】



令和4年度の貴施設中学生の学習支援利用人数については、「5人以上」が26.5%と最も多く、次いで、「3人」が18.8%、「2人」が16.0%、「1人」、「4人」がそれぞれ12.7%、「0人」が11.6%となっています。

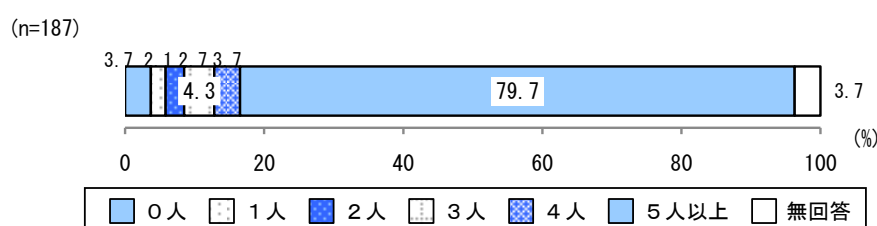
B-9 進学を目指す高校生に対する学習支援状況について



進学を目指す高校生に対する学習支援状況については、「学習塾、予備校の利用」が70.1%と最も多く、次いで、「学習ボランティアの利用」が36.9%、「家庭教師の利用」が17.1%、「特に何もしていない」が13.9%、「通信教材の利用」が7.5%となっています。

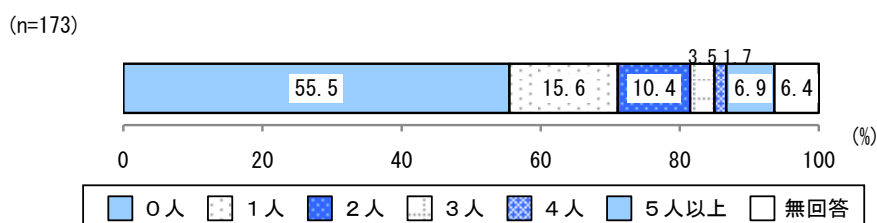
B-10 措置費における特別育成費補習費事業の利用状況について

【令和4年度の貴施設高校生人数】



令和4年度の貴施設高校生人数については、「5人以上」が79.7%と最も多く、次いで、「3人」が4.3%、「0人」、「4人」がそれぞれ3.7%、「2人」が2.7%、「1人」が2.1%となっています。

【令和4年度の貴施設高校生の学習支援利用人数】



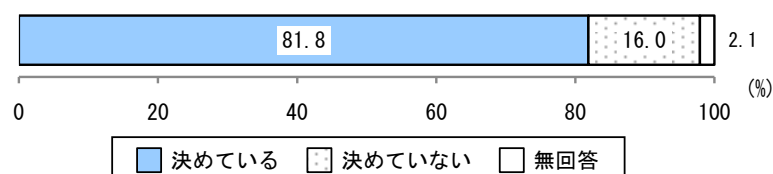
令和4年度の貴施設高校生の学習支援利用人数については、「0人」が55.5%と最も多く、次いで、「1人」が15.6%、「2人」が10.4%、「5人以上」が6.9%、「3人」が3.5%となっています。

C. 施設の取り組み アフターケアの体制と支援

【施設におけるアフターケアの体制】

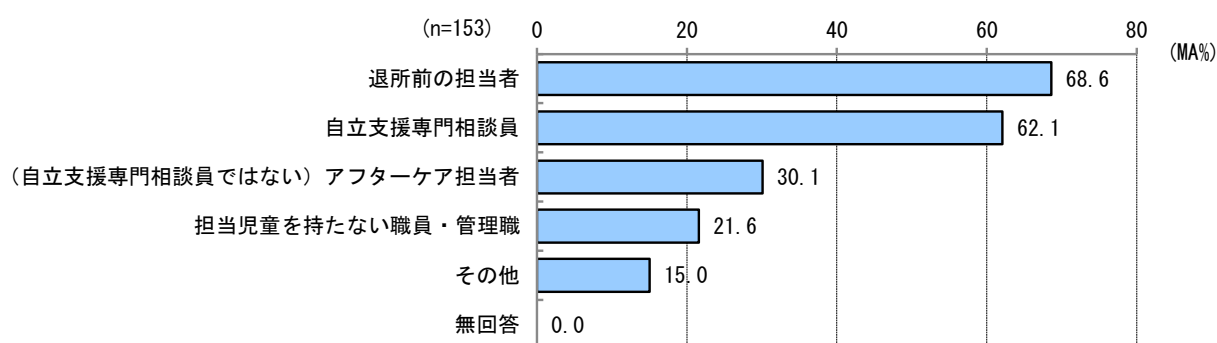
C-1 18歳以上のアフターケア担当職員決定有無について

(n=187)



18歳以上のアフターケア担当職員決定有無については、「決めている」が81.8%と最も多く、次いで、「決めていない」が16.0%となっています。

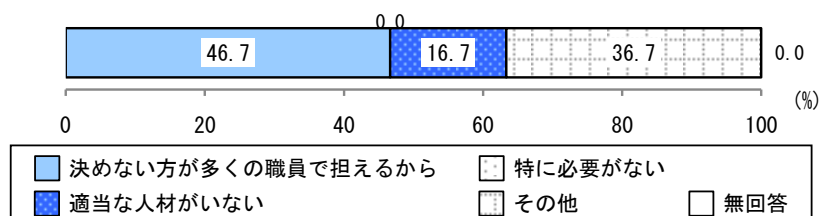
C-1-1 アフターケア担当職員の立場について



アフターケア担当職員の立場については、「退所前の担当者」が68.6%と最も多く、次いで、「自立支援専門相談員」が62.1%、「(自立支援専門相談員ではない) アフターケア担当者」が30.1%、「担当児童を持たない職員・管理職」が21.6%となっています。

C-1-2 アフターケア担当職員を決めていない理由について

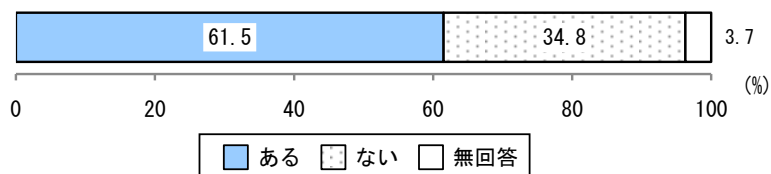
(n=30)



アフターケア担当職員を決めていない理由については、「決めない方が多くの職員で担えるから」が46.7%と最も多く、次いで、「適切な人材がない」が16.7%となっています。

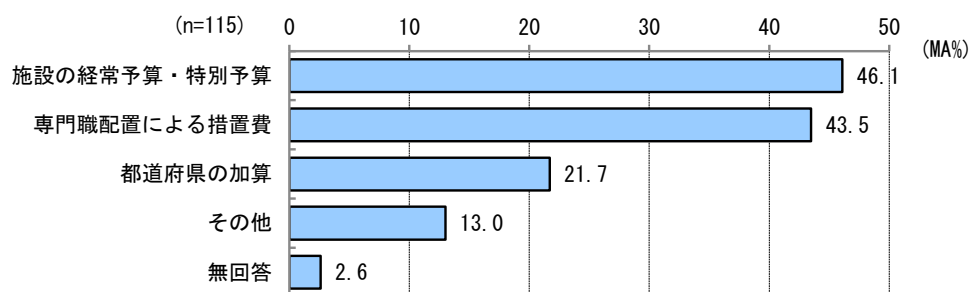
C-2 アフターケアにかかる予算について

(n=187)



アフターケアにかかる予算については、「ある」が61.5%と最も多く、次いで、「ない」が34.8%となっています。

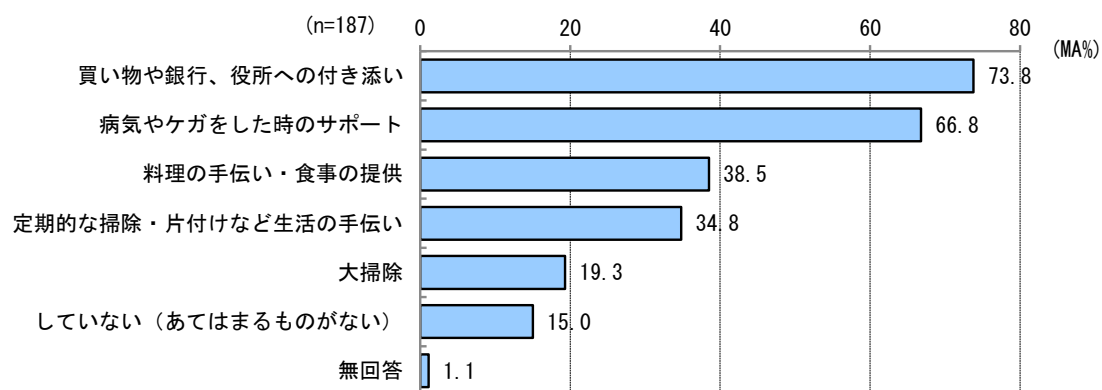
C-2-1 アフターケアにかかる予算の出所について



予算の出所については、「施設の経常予算・特別予算」が46.1%と最も多く、次いで、「専門職配置による措置費」が43.5%、「都道府県の加算」が21.7%となっています。

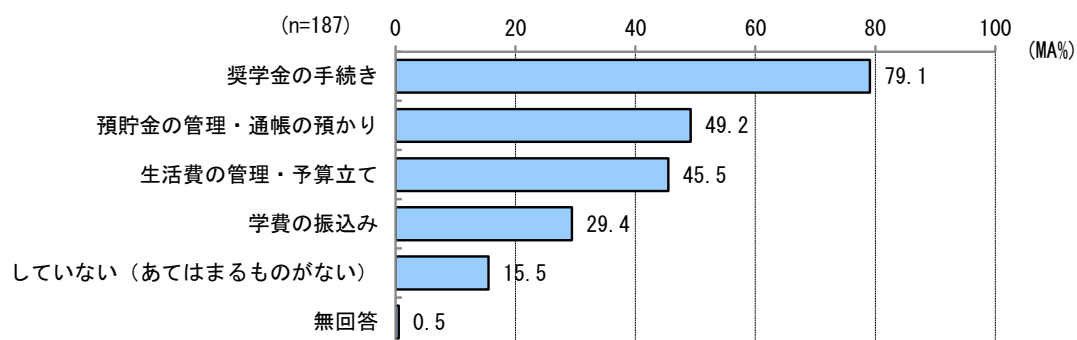
C-3 アフターケアの内容について

【アフターケア（生活面のサポート）】



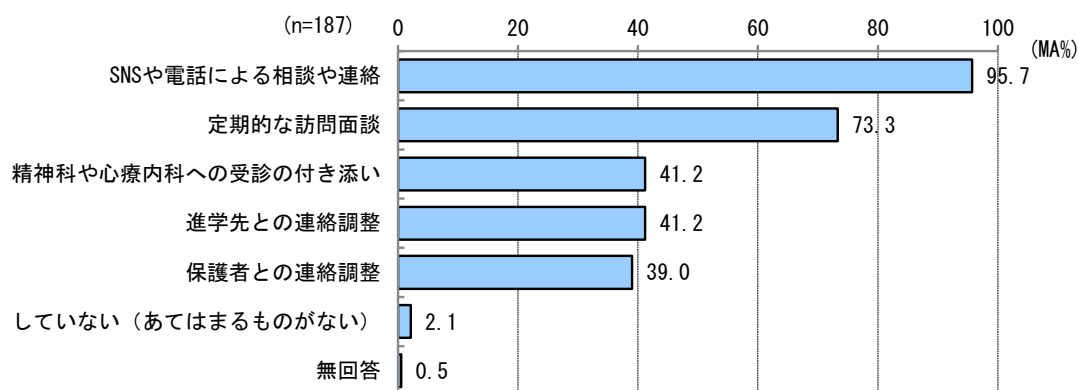
アフターケア（生活面のサポート）については、「買い物や銀行、役所への付き添い」が73.8%と最も多く、次いで、「病気やケガをした時のサポート」が66.8%、「料理の手伝い・食事の提供」が38.5%、「定期的な掃除・片付けなど生活の手伝い」が34.8%、「大掃除」が19.3%となっています。

【アフターケア（経済面のサポート）】



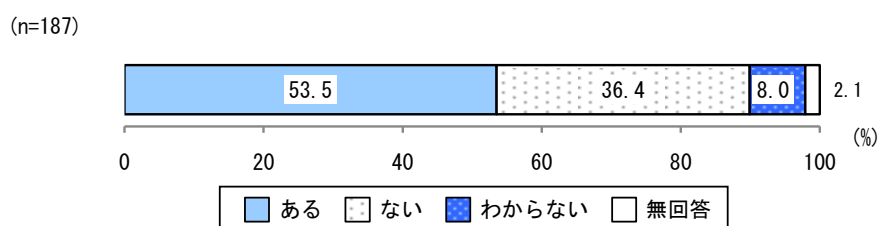
アフターケア（経済面のサポート）については、「奨学金の手続き」が79.1%と最も多く、次いで、「預貯金の管理・通帳の預かり」が49.2%、「生活費の管理・予算立て」が45.5%、「学費の振込み」が29.4%、「していない（あてはまるものがない）」が15.5%となっています。

【アフターケア（精神面のサポート）】



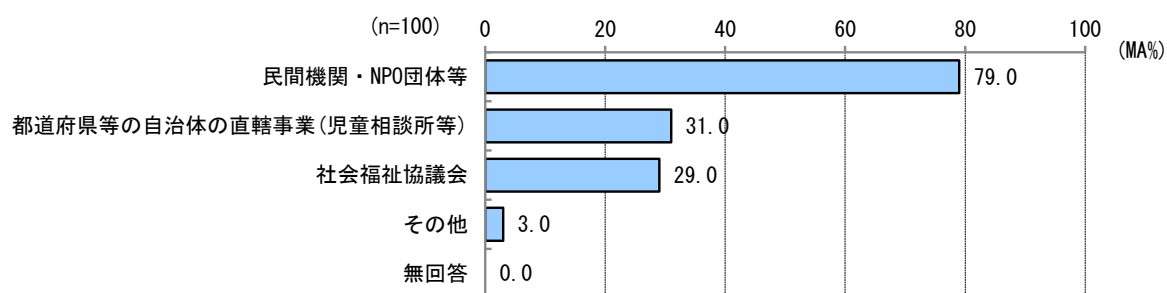
アフターケア（精神面のサポート）については、「SNS や電話による相談や連絡」が 95.7%と最も多く、次いで、「定期的な訪問面談」が 73.3%、「精神科や心療内科への受診の付き添い」、「進学先との連絡調整」がそれぞれ 41.2%、「保護者との連絡調整」が 39.0%、「していない（あてはまるものがない）」が 2.1%となっています。

C－4 社会的養護自立支援事業所の有無について



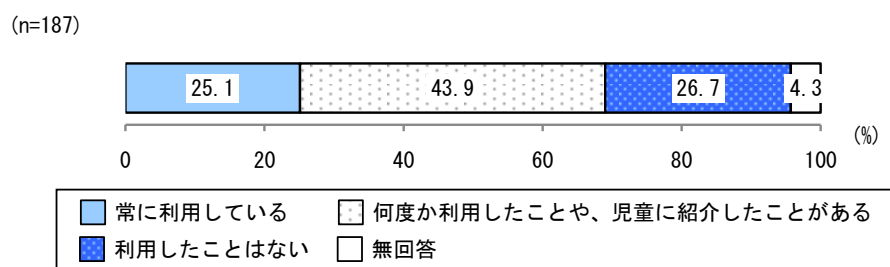
社会的養護自立支援事業所の有無については、「ある」が 53.5%と最も多く、次いで、「ない」が 36.4%となっています。

C-5 自立支援に関する事業の事業主体について



自立支援に関する事業の事業主体については、「民間機関・NPO 団体等」が 79.0%と最も多く、次いで、「都道府県等の自治体の直轄事業(児童相談所等)」が 31.0%、「社会福祉協議会」が 29.0%となっています。

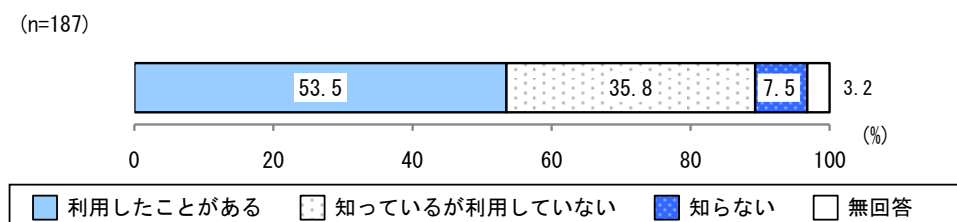
C-6 アフターケア・サービスの利用・情報提供の有無について



アフターケア・サービスの利用・情報提供の有無については、「何度か利用したことや、児童に紹介したことがある」が 43.9%と最も多く、次いで、「利用したことはない」が 26.7%、「常に利用している」が 25.1%となっています。

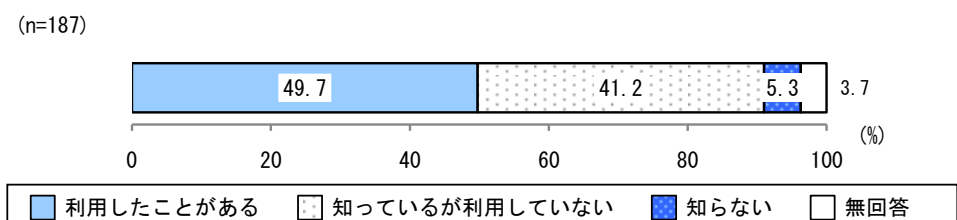
C-7 各制度の利用状況について

【社会的養護自立支援事業利用状況】



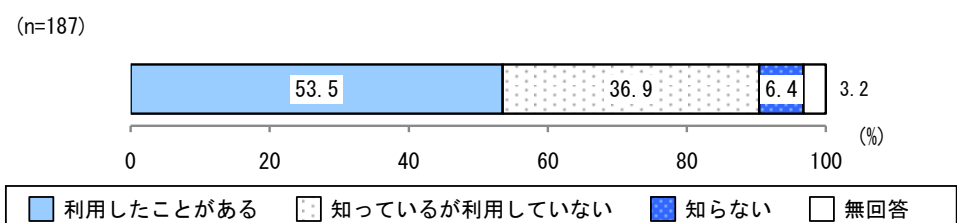
社会的養護自立支援事業利用状況については、「利用したことがある」が53.5%と最も多く、次いで、「知っているが利用していない」が35.8%、「知らない」が7.5%となっています。

【自立支援資金貸付事業利用状況】



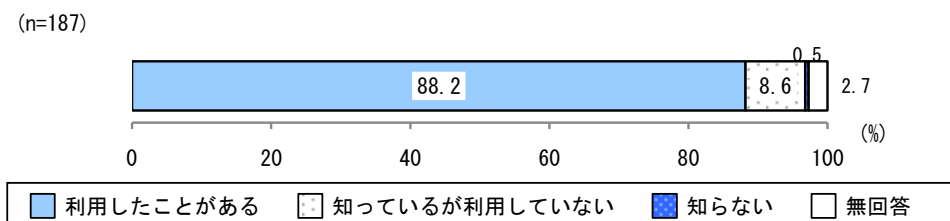
自立支援資金貸付事業利用状況については、「利用したことがある」が49.7%と最も多く、次いで、「知っているが利用していない」が41.2%、「知らない」が5.3%となっています。

【身元保証人確保対策事業利用状況】



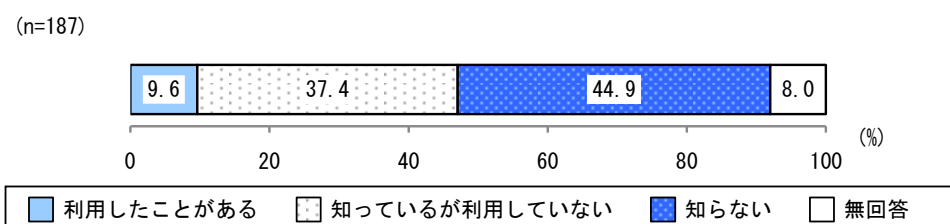
身元保証人確保対策事業利用状況については、「利用したことがある」が53.5%と最も多く、次いで、「知っているが利用していない」が36.9%、「知らない」が6.4%となっています。

【学生支援機構給付型奨学金利用状況】



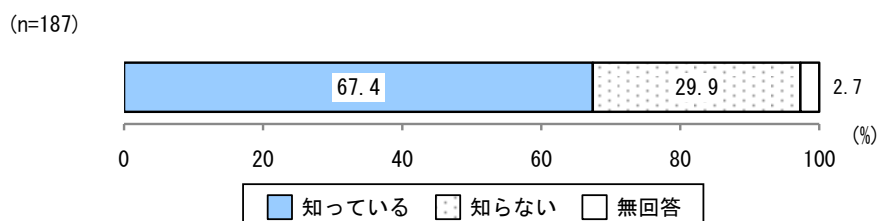
学生支援機構給付型奨学金利用状況については、「利用したことがある」が 88.2%と最も多く、次いで、「知っているが利用していない」が 8.6%、「知らない」が 0.5%となっています。

【自立後生活体験支援利用状況】



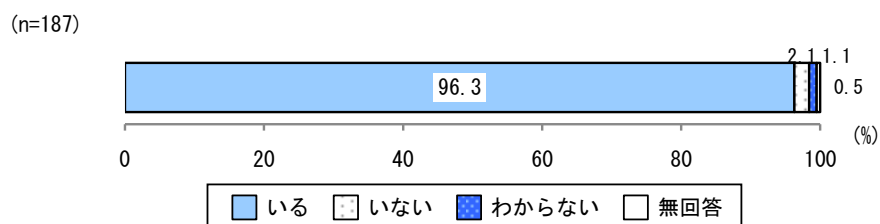
自立後生活体験支援利用状況については、「知らない」が 44.9%と最も多く、次いで、「知っているが利用していない」が 37.4%、「利用したことがある」が 9.6%となっています。

【児童養護施設等の生徒への受験料等支援】



児童養護施設等の生徒への受験料等支援については、「知っている」が 67.4%と最も多く、次いで、「知らない」が 29.9%となっています。

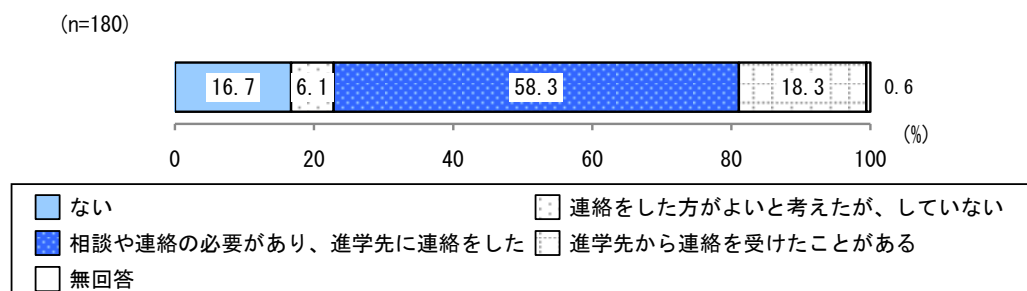
C－8 貴施設から大学や短大、専門学校に進学した児童有無について



貴施設から大学や短大、専門学校に進学した児童有無については、「いる」が96.3%と最も多く、次いで、「いない」が2.1%となっています。

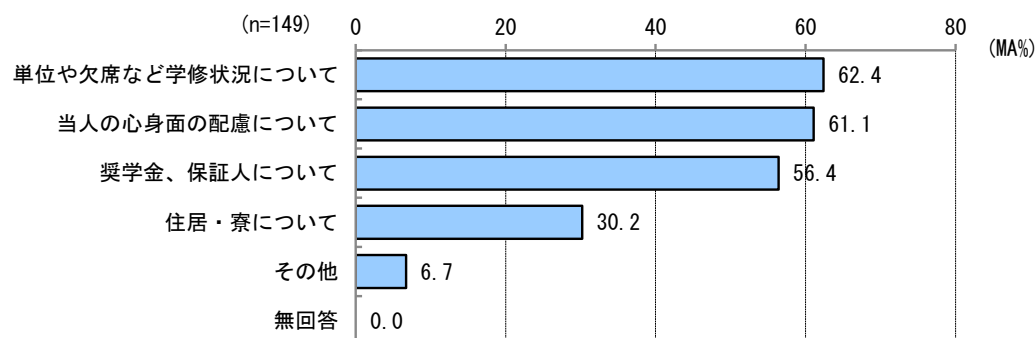
C－9 進学先に相談や連絡が必要と考えた経験有無について

(以降の設問はC－8で「いる」と回答した方のみ)



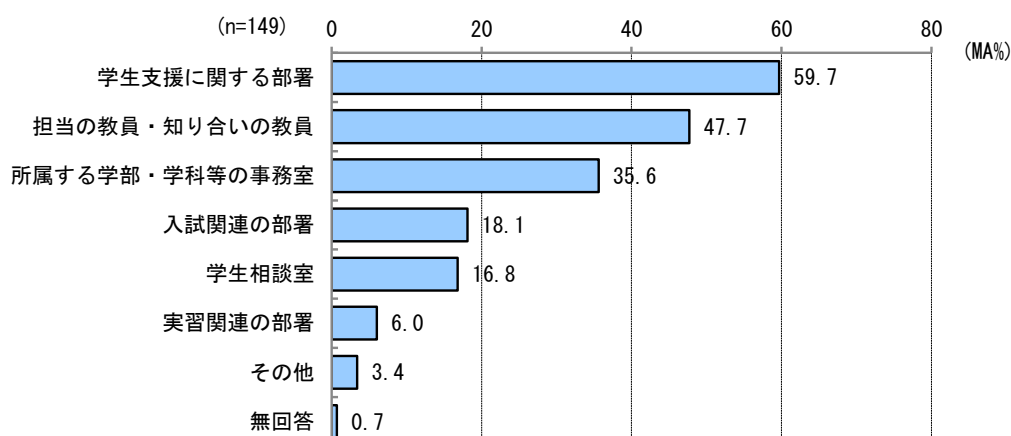
進学先に相談や連絡が必要と考えた経験有無については、「相談や連絡の必要があり、進学先に連絡をした」が58.3%と最も多く、次いで、「進学先から連絡を受けたことがある」が18.3%、「ない」が16.7%、「連絡をした方がよいと考えたが、していない」が6.1%となっています。

C－9－1 進学先へ相談や連絡が必要と考えた内容について



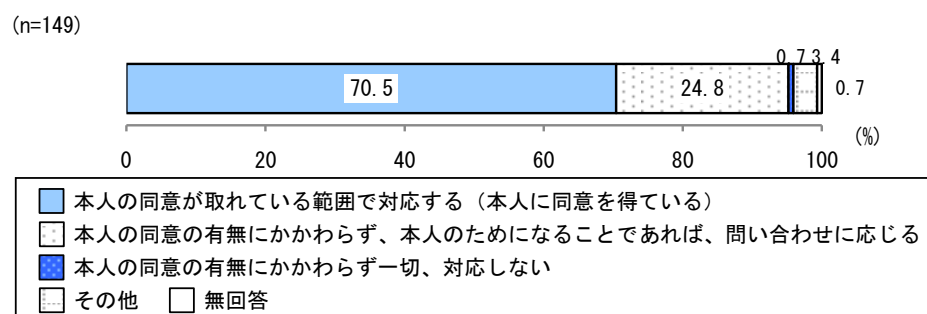
進学先へ相談や連絡が必要と考えた内容については、「単位や欠席など学修状況について」が62.4%と最も多く、次いで、「当人の心身面の配慮について」が61.1%、「奨学金、保証人について」が56.4%、「住居・寮について」が30.2%となっています。

C－9－2 進学先のどの部署と連絡を取ったかについて



進学先のどの部署と連絡を取ったかについては、「学生支援に関する部署」が59.7%と最も多く、次いで、「担当の教員・知り合いの教員」が47.7%、「所属する学部・学科等の事務室」が35.6%、「入試関連の部署」が18.1%、「学生相談室」が16.8%となっています。

C－9－3 進学先から、当人の個人情報についての問合せがあった場合の対応内容について

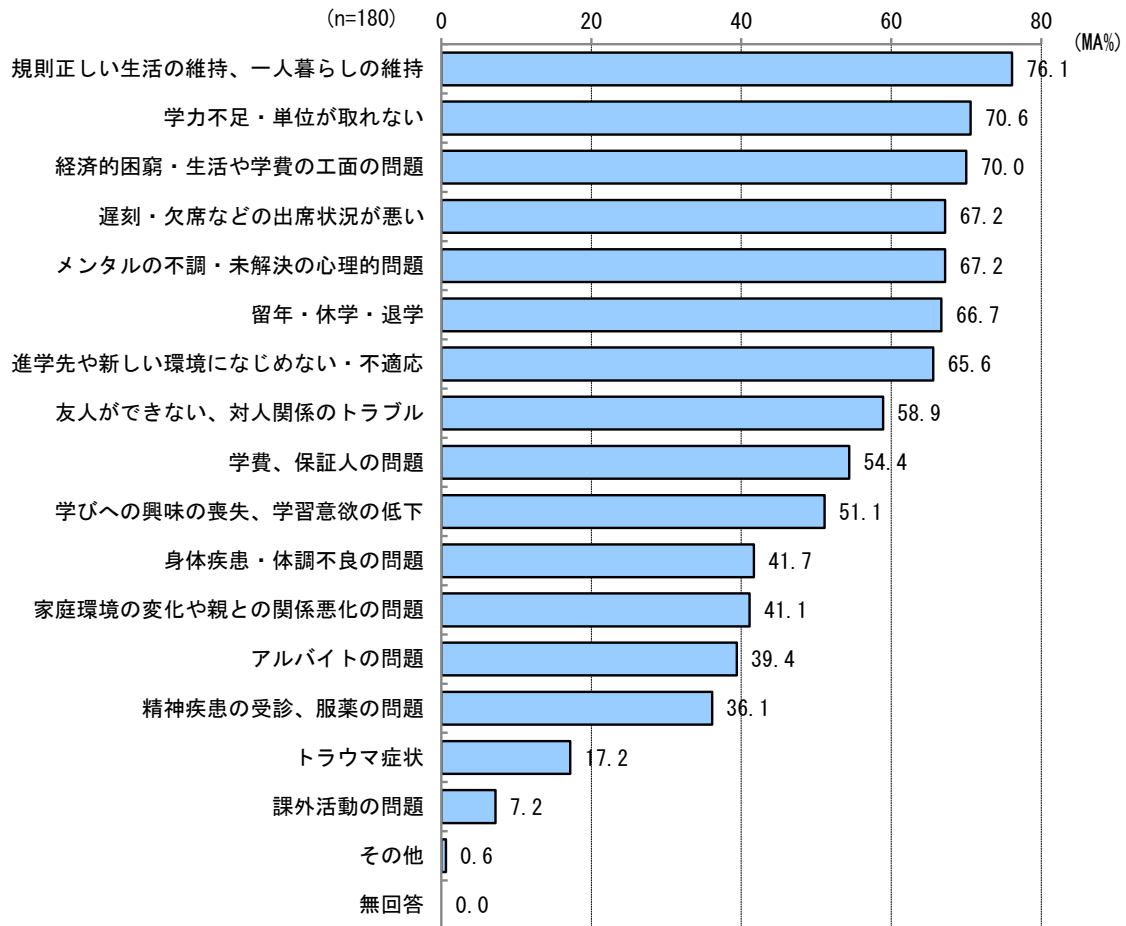


進学先から、当人の個人情報についての問合せがあった場合の対応内容については、「本人の同意が取れている範囲で対応する (本人に同意を得ている)」が70.5%と最も多く、次いで、「本人の同意の有無にかかわらず、本人のためになることであれば、」が24.8%、「本人の同意の有無にかかわらず一切、対応しない」が0.7%となっています。

【進学後の懸念】

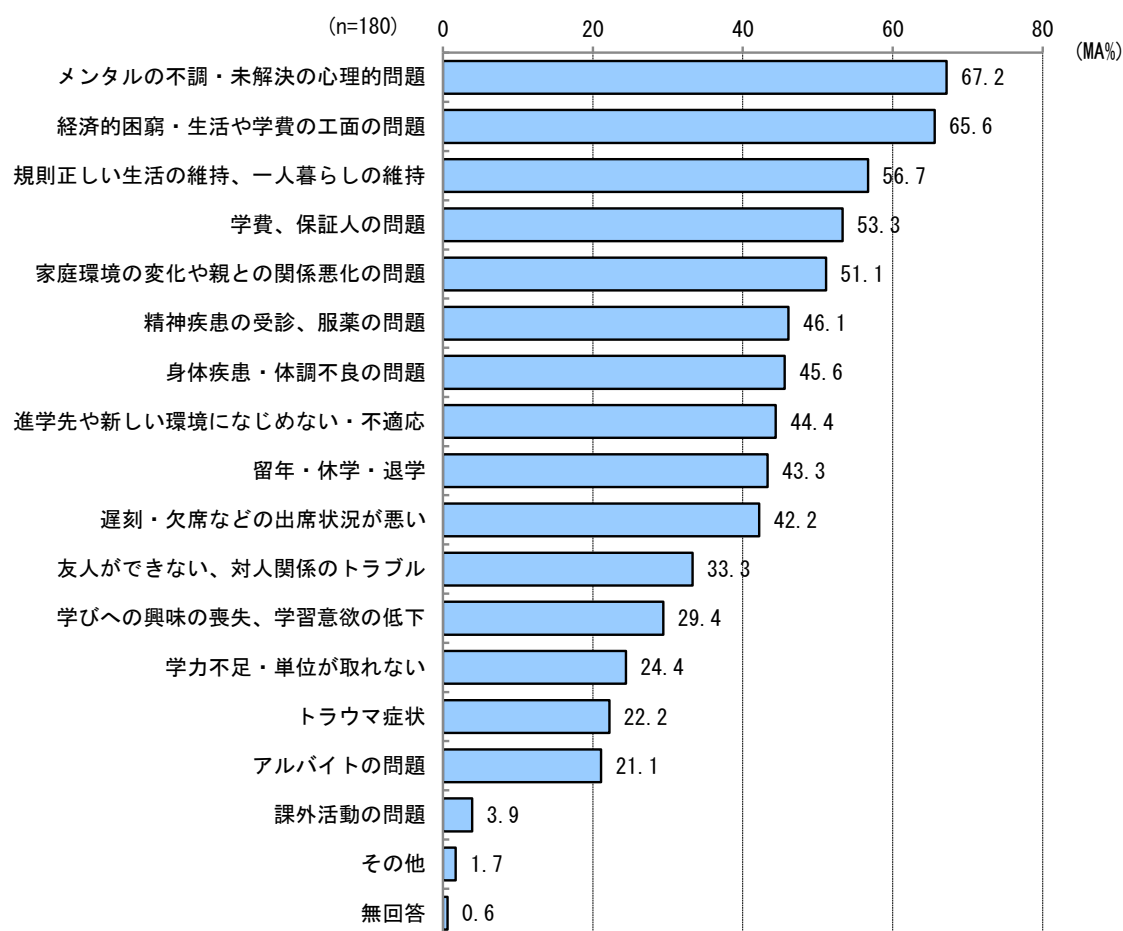
C-10 進学した児童について懸念されることについて

【学生生活を送るうえで、進学した児童に懸念されること】



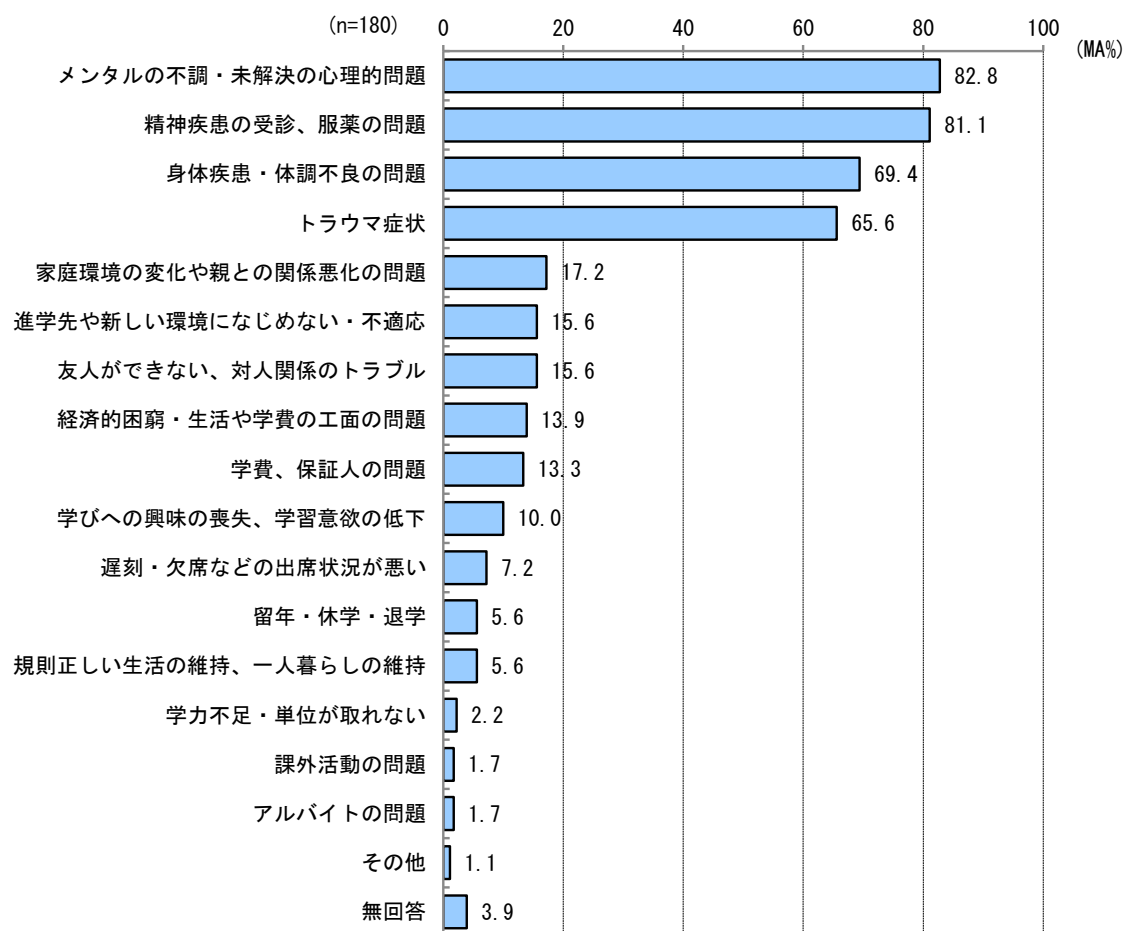
学生生活を送るうえで、進学した児童について懸念されることについては、「規則正しい生活の維持、一人暮らしの維持」が76.1%と最も多く、次いで、「学力不足・単位が取れない」が70.6%、「経済的困窮・生活や学費の工面の問題」が70.0%、「遅刻・欠席などの出席状況が悪い」、「メンタルの不調・未解決の心理的問題」がそれぞれ67.2%、「留年・休学・退学」が66.7%となっています。

【施設のサポートが必要になることがあると思われる問題】



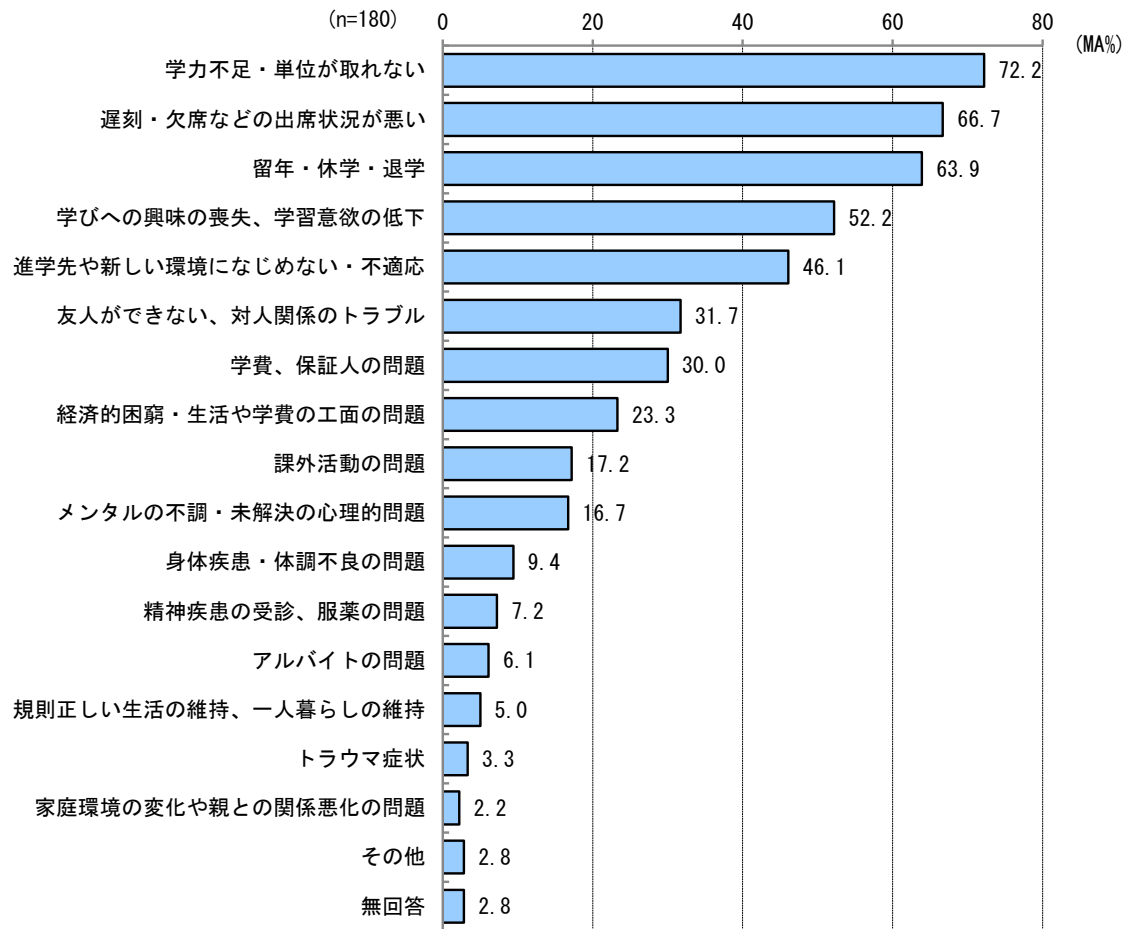
施設のサポートが必要になることがあると思われる問題については、「メンタルの不調・未解決の心理的問題」が67.2%と最も多く、次いで、「経済的困窮・生活や学費の工面の問題」が65.6%、「規則正しい生活の維持、一人暮らしの維持」が56.7%、「学費、保証人の問題」が53.3%、「家庭環境の変化や親との関係悪化の問題」が51.1%となっています。

【専門家の支援（医療機関など）が必要と思われる問題】



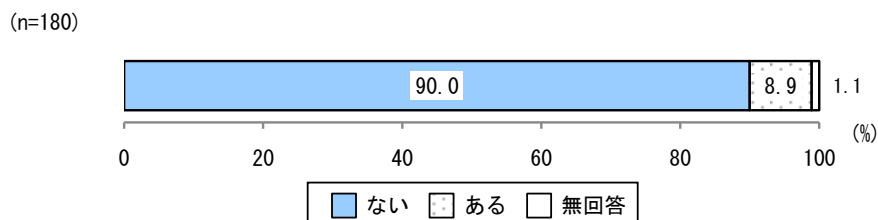
専門家の支援（医療機関など）が必要と思われる問題については、「メンタルの不調・未解決の心理的問題」が82.8%と最も多く、次いで、「精神疾患の受診、服薬の問題」が81.1%、「身体疾患・体調不良の問題」が69.4%、「トラウマ症状」が65.6%、「家庭環境の変化や親との関係悪化の問題」が17.2%となっています。

【進学先の大学等の支援が必要と思われる問題】



進学先の大学等の支援が必要と思われる問題については、「学力不足・単位が取れない」が72.2%と最も多く、次いで、「遅刻・欠席などの出席状況が悪い」が66.7%、「留年・休学・退学」が63.9%、「学びへの興味の喪失、学習意欲の低下」が52.2%、「進学先や新しい環境になじめない・不適應」が46.1%となっています。

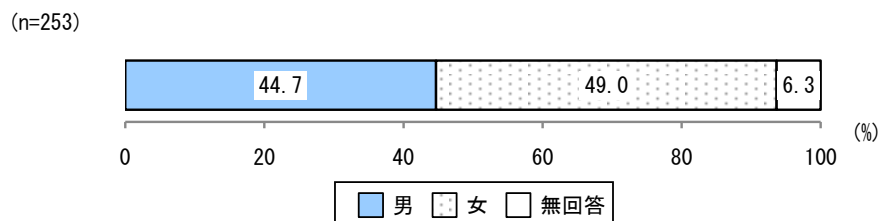
C-11 進学者本人の問題で、進学後に児童相談所が進学先と連携したことについて



進学者本人の問題で、進学後に児童相談所が進学先と連携したことはありますかについては、「ない」が90.0%と最も多く、次いで、「ある」が8.9%となっています。

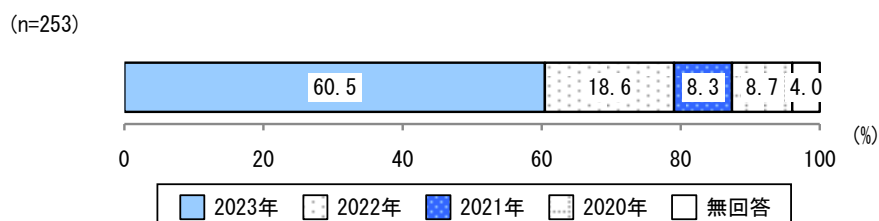
D. 個々の進学者の状況

性別について



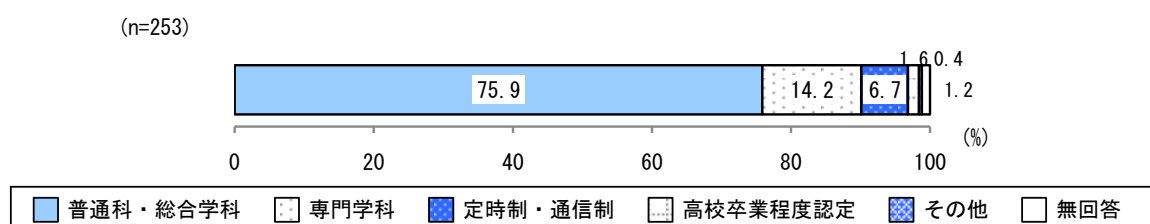
性別は、「女」が49.0%と最も多く、次いで、「男」が44.7%となっています。

高校卒業年度について



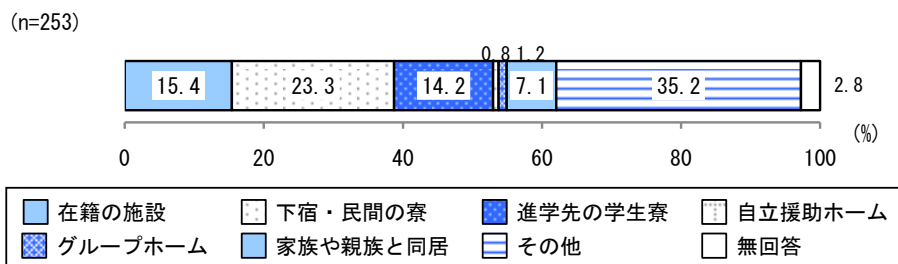
高校卒業年度は、「2023 年」が60.5%と最も多く、次いで、「2022 年」が18.6%、「2020 年」が8.7%、「2021 年」が8.3%となっています。

卒業した高校について



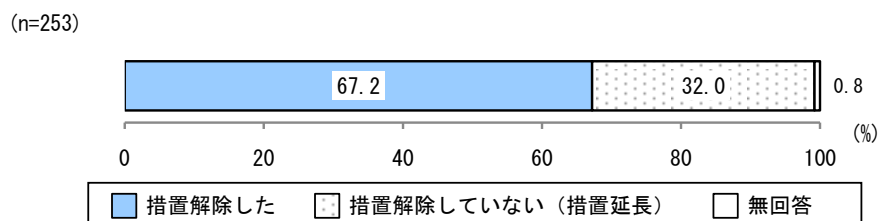
卒業した高校については、「普通科・総合学科」が75.9%と最も多く、次いで、「専門学科」が14.2%、「定時制・通信制」が6.7%、「高校卒業程度認定」が1.6%となっています。

現在の住居について



現在の住居は、「下宿・民間の寮」が23.3%と最も多く、次いで、「在籍の施設」が15.4%、「進学先の学生寮」が14.2%、「家族や親族と同居」が7.1%、「グループホーム」が1.2%となっています。

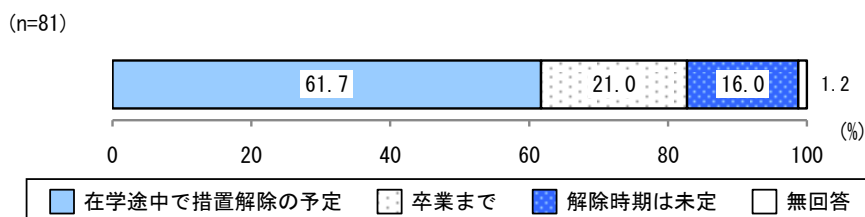
高校卒業時の措置解除について



高校卒業時の措置解除は、「措置解除した」が67.2%と最も多く、次いで、「措置解除していない（措置延長）」が32.0%となっています。

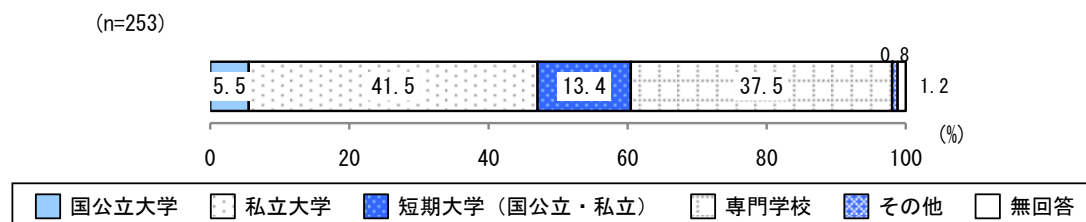
措置延長の場合、解除の見通しについて

（高校卒業時の措置解除で「措置解除していない（措置延長）」と回答した方のみ）



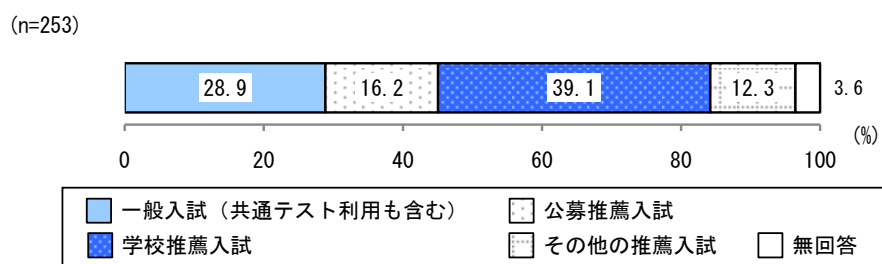
措置延長の場合、解除の見通しは、「在学途中で措置解除の予定」が61.7%と最も多く、次いで、「卒業まで」が21.0%、「解除時期は未定」が16.0%となっています。

進学先について



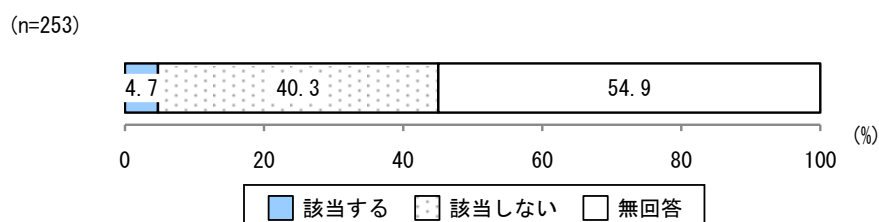
進学先は、「私立大学」が 41.5%と最も多く、次いで、「専門学校」が 37.5%、「短期大学（国公立・私立）」が 13.4%、「国公立大学」が 5.5%となっています。

入試制度について



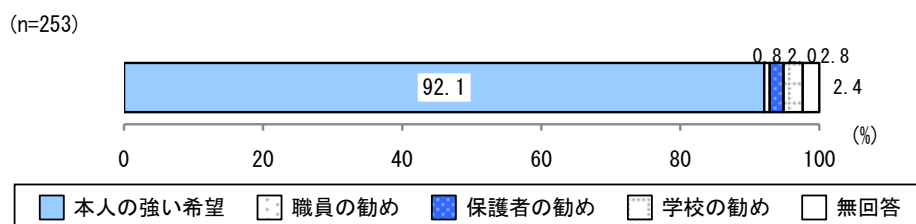
入試制度は、「学校推薦入試」が 39.1%と最も多く、次いで、「一般入試（共通テスト利用も含む）」が 28.9%、「公募推薦入試」が 16.2%、「その他の推薦入試」が 12.3%となっています。

社会的養育在籍者に特化した入試制度の利用について（進学者のみ）



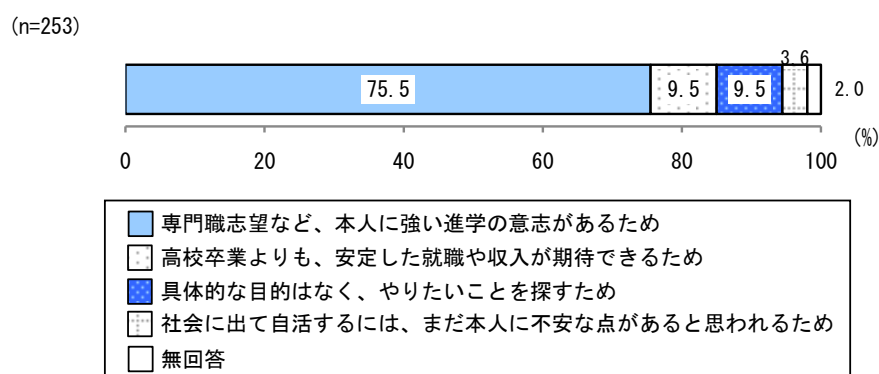
社会的養育在籍者に特化した入試制度の利用（進学者は、「該当しない」が 40.3%と最も多く、次いで、「該当する」が 4.7%となっています。

進学決定の要因について



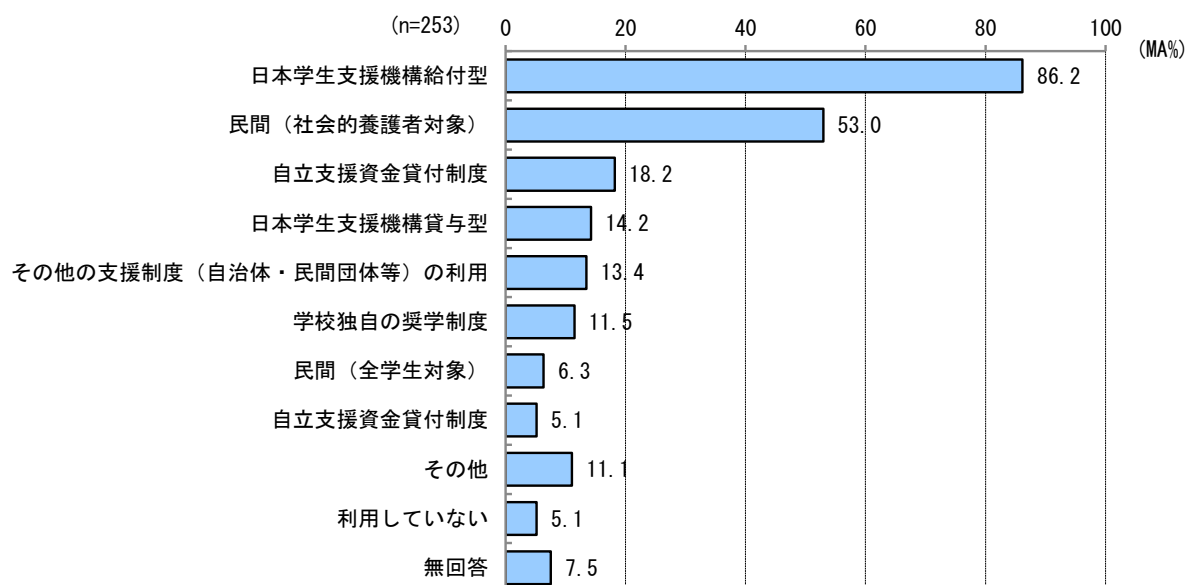
進学決定の要因は、「本人の強い希望」が 92.1%と最も多く、次いで、「学校の勧め」が 2.8%、「保護者の勧め」が 2.0%、「職員の勧め」が 0.8%となっています。

進学目的について



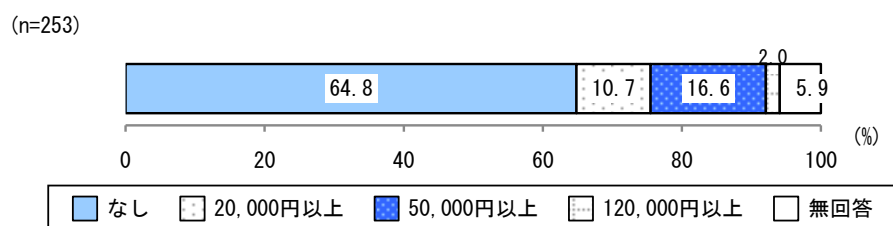
進学目的は、「専門職志望など、本人に強い進学の意志があるため」が 75.5%と最も多く、次いで、「高校卒業よりも、安定した就職や収入が期待できるため」、「具体的な目的はなく、やりたいことを探するため」がそれぞれ 9.5%、「社会に出て自活するには、まだ本人に不安な点があると思われるた」が 3.6%となっています

受給・利用している奨学金および支援制度等について



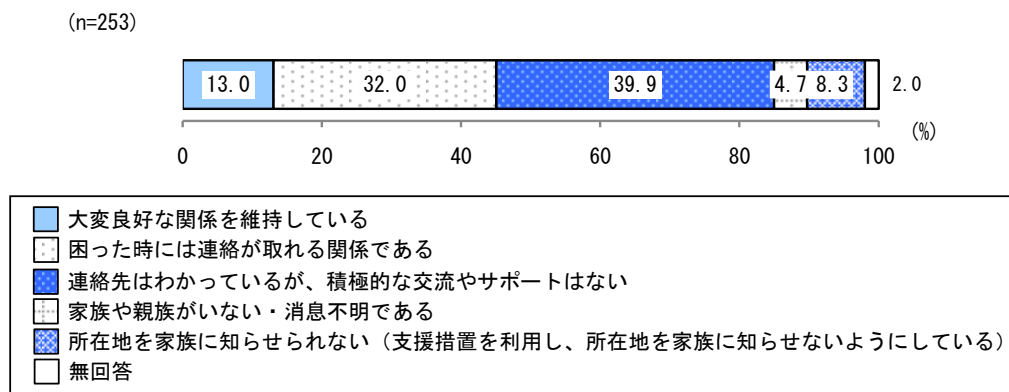
受給・利用している奨学金及び支援制度等は、「日本学生支援機構給付型」が 86.2%と最も多く、次いで、「民間（社会的養護者対象）」が 53.0%、「自立支援資金貸付制度」が 18.2%、「日本学生支援機構貸与型」が 14.2%、「その他の支援制度（自治体・民間団体等）の利用」が 13.4%となっています。

貸与型奨学金の月額受給について



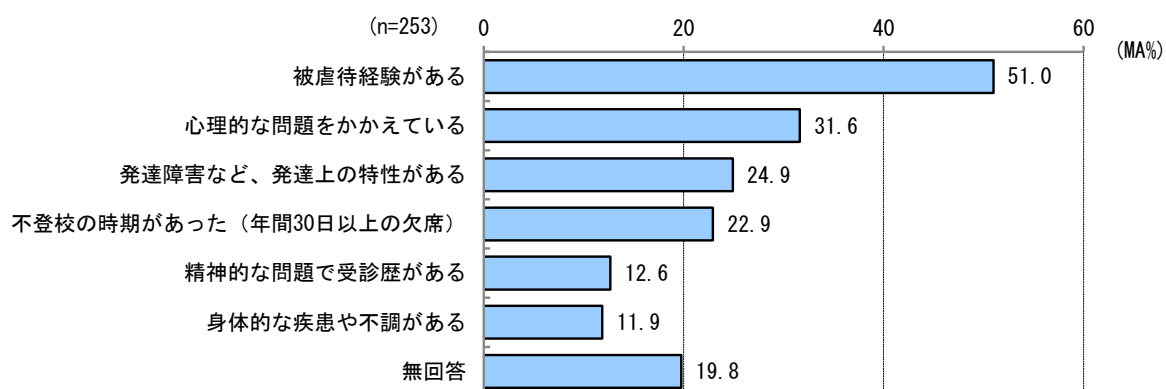
貸与型奨学金の月額受給については、「なし」が 64.8%と最も多く、次いで、「50,000 円以上」が 16.6%、「20,000 円以上」が 10.7%、「120,000 円以上」が 2.0%となっています。

家族や親族との関係について



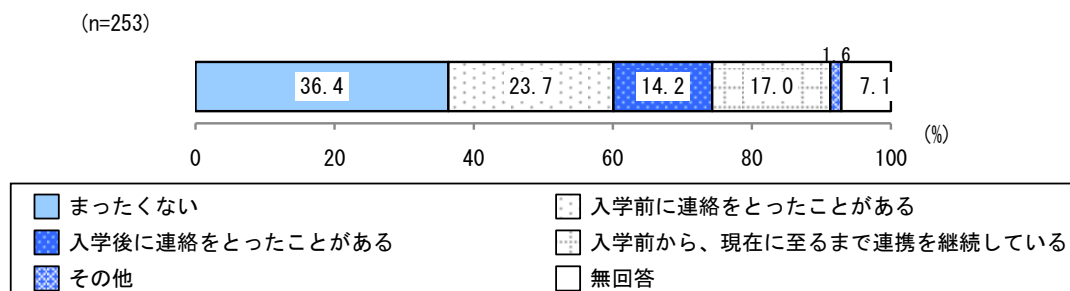
家族や親族との関係は、「連絡先はわかっているが、積極的な交流やサポートはない」が39.9%と最も多く、次いで、「困った時には連絡が取れる関係である」が32.0%、「大変良好な関係を維持している」が13.0%、「所在地を家族に知らせられない（支援措置を利用し、所在地を家族に知らせないようにしている）」が8.3%、「家族や親族がいない・消息不明である」が4.7%となっています。

施設の職員から見て、当人が抱えていると思われる問題について



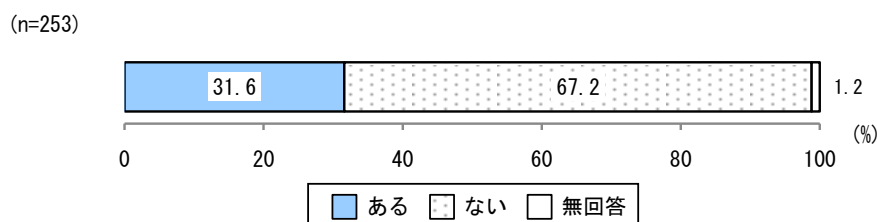
施設の職員から見て、当人が抱えていると思われる問題は、「被虐待経験がある」が51.0%と最も多く、次いで、「心理的な問題をかかえている」が31.6%、「発達障害など、発達上の特性がある」が24.9%、「不登校の時期があった（年間30日以上欠席）」が22.9%、「精神的な問題で受診歴がある」が12.6%となっています。

進学する児童のことで進学先に問い合わせや相談、連絡等をした経験について



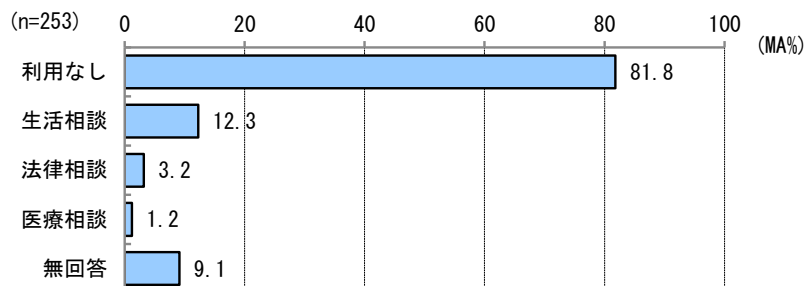
進学する児童のことで、進学先に、問い合わせた経験は、「まったくない」が36.4%と最も多く、次いで、「入学前に連絡をとったことがある」が23.7%、「入学前から、現在に至るまで連携を継続している」が17.0%、「入学後に連絡をとったことがある」が14.2%となっています。

貴施設以外のアフターケアの利用有無について



貴施設以外のアフターケアの利用の有無は、「ない」が67.2%と最も多く、次いで、「ある」が31.6%となっています。

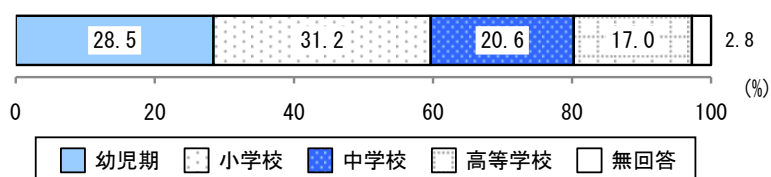
社会的養護自立支援事業の利用の有無について



社会的養護自立支援事業の利用の有無は、「利用なし」が81.8%と最も多く、次いで、「生活相談」が12.3%、「法律相談」が3.2%、「医療相談」が1.2%となっています。

貴施設への入所時期について

(n=253)



貴施設への入所時期は、「小学校」が31.2%と最も多く、次いで、「幼児期」が28.5%、「中学校」が20.6%、「高等学校」が17.0%となっています。

資 料

(調査票)

施設から大学等へ進学した学生の自立支援に関する調査

日本学術振興会科学研究費（挑戦的萌芽）研究

「社会的養護から進学した学生の自立を支援する大学等高等教育機関の役割」

調査へのご協力をお願い

<調査目的と概要>

- ・ このアンケートは、大学や短大、専門学校への進学を志す児童に対する進路指導やアフターケアについて、施設の取り組みや課題をおたずねする調査です。
- ・ 本研究の目的は、社会的養護から進学した学生が、大学等の高等教育機関の学業を成就し、将来にわたる安定した社会的自立を果たせるように、児童養護施設の進学に向けた取り組み、入学後の進学先の支援の現状（施設等との連携を含む）を調査し、大学等の教育支援のあり方や今後の方向性を示すことを目的としています。
- ・ 本調査は、施設を対象とした一次調査となり、本調査の結果をもとに、二次調査として児童養護施設からの進学者を受け入れている**大学や短大への調査**を行う予定です。研究の結果は社会的養育を経験した学生の自立支援に還元できるように精励いたします。

<記入上の注意>

- ・ 回答は、無記名です。調査への協力に同意される方は、アンケートにご回答ください。
 - ・ 調査への協力に同意されない場合は、お手数ですが本調査用紙の破棄をお願いします。
 - ・ 無記名の調査のため、返送後の協力の撤回や回答の修正は恐縮ですがいたしかねます。
 - ・ あてはまる番号や英字に○印をつけてください。
- 質問によっては数字で回答する場合もあります。その際は具体的な数字をご記入ください。
- その他に○をつけられた場合は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ・ 進学した児童がいない場合も、ご回答ください。

<調査票の構成>

本調査は以下の3部構成になっています。Ⅰ・Ⅱと、Ⅲは返送先が異なります。

Ⅰ 調査票

A 施設の基本情報

B 施設の取り組み リービングケアの体制と支援

C 施設の取り組み アフターケアの体制と支援

D 進学者の状況

Ⅱ 進学先の情報 （2次調査へのご協力をお願い）

Ⅲ インタビュー調査の可否（3次調査へのご協力をお願い） → QRコード②

回答の返送は
返信封筒、または QRコード①

<回答方法と返送について>

- ・ I・IIと、IIIで、回答方法と返送先が異なります。
(IIIの回答方法については別紙「III インタビュー調査（3次調査）へのご協力をお願い」をご覧ください。）
- ・ I・IIの回答方法は2種類あります。どちらか答えやすい方法でご回答ください。

パターン1：同封の調査用紙に記入後、返信封筒で郵送

パターン2：QRコード①を読み取り、オンラインで回答

※最初の画面でログインIDとパスワードを入力してください。

なお、施設との紐づけは行っておりませんので施設が特定されることはありません。

QRコード①（I・IIの回答）

URL：<https://src.webcas.net/form/pub/src2/kfuni>



ログインID：
パスワード：

I・IIと、IIIともに●月●日（）までにご回答をいただきますようお願いいたします。

<お問い合わせ先>

本調査研究について、ご不明な点やご質問、ご意見がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

- 本調査研究についてのご不明点やご質問、ご意見はこちら
「社会的養護から進学した学生の自立を支援する大学等高等教育機関の役割」研究会
代表：関西福祉科学大学 教授 谷向みつえ（mtanimukai@tamateyama.ac.jp）
〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘 3-11-1
関西福祉科学大学 Tel/Fax：072-978-0753
共同研究者：関西福祉科学大学 畠中宗一 ・ 関西福祉科学大学 荒木敏宏
関西福祉科学大学 相谷 登 ・ 大阪人間科学大学 荒屋昌弘
- アンケート実施についてのお問い合わせはこちら
調査票の発信元・提出先
株式会社 サーベイリサーチセンター MR 課 久萬貴史（kuma_t@surece.co.jp）
〒530-6011 大阪市北区天満橋 1-8-30 Tel：0120-115-303
FAX：06-4801-9228

I 施設から大学等へ進学した学生の自立支援に関する調査

A. 施設の基本情報

A-1 貴施設の所在地（都道府県名でお答えください）（ ）都道府県

A-2 生活の形態と児童の定員数

【施設種別】 該当するところに ○をつけてください。	[1. 大舎制 ・ 2. 中舎制 ・ 3. 小舎制] 児童定員数 []人	
	1. 小規模グループケア（敷地内）	（ ）箇所
	2. 小規模グループケア（敷地外）	（ ）箇所
	3. 分園型小規模グループケア	（ ）箇所
	4. 地域小規模児童養護施設	（ ）箇所

A-3 貴施設内の職員配置についておたずねします。配置していない場合はその理由を選択肢から選んでください。

	配置の有無（○は1つ）	未配置の理由（複数回答可）
自立支援専門 相談員 （ ）人	1. 配置している 2. 配置していない →	1. 配置基準を満たさない 2. 適当な人材がいらない 3. 特に必要がない 4. その他（ ）
職業指導員	1. 配置している 2. 配置していない →	1. 配置基準を満たさない 2. 適当な人材がいらない 3. 特に必要がない 4. 制度を知らない 5. その他（ ）
家庭支援専門 相談員	1. 配置している （家庭支援専門相談員に専従） 2. 配置している（他業種と兼務） 3. 配置していない →	1. 配置基準を満たさない 2. 適当な人材がいらない 3. 特に必要がない 4. 制度を知らない 5. その他（ ）
個別対応職員	1. 配置している （個別対応職員に専従） 2. 配置している（他業務と兼務） 3. 配置していない →	1. 配置基準を満たさない 2. 適当な人材がいらない 3. 特に必要がない 4. 制度を知らない 5. その他（ ）

A-4 過去5年間の18歳（高校卒業後）の進路状況と、進路の内訳（進学・就労等）をご記入ください。
進学先内訳の上段に合計人数、下段に中退、休学者数をお書きください。

年度	進学者合計数	(進学者内訳)		就職
	措置延長の数	大学・短大	専門学校等	措置延長の数
2022	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)
2021	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)
2020	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)
2019	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)
2018	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名)	合計人数 (名) 内、措置延長 (名)

1. いる () 人 2. ない 3. わからない

B-1 児童が働く体験をする機会（職業体験やインターンシップ、アルバイトなど）はありますか？あてはまるものをすべてお選びください。

1. 進学希望の有無や、志望校の決定について、個別に面談して確認する。
2. インターンシップなどの職業体験や、進路について考える機会を設けている。
3. オープンキャンパスや学校見学に行きやすい状況を作っている。
4. 進学した児童と交流する機会を積極的に設けている
5. 大学生等のボランティアとの交流を積極的に設けている
6. 奨学金の情報を提供する → B-2-1 へお進みください
7. 本人の貯金に関わらず、入学金や授業料を施設が立て替える仕組みを作っている
8. その他 ()

B-2-1 【B-2 で「 6. 奨学金の情報提供をする」と回答した方のみお答えください】

情報提供を行う際には、以下の内、どれに当たりますか。

- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| 1. 高校 3 年生全員に伝える | 2. 希望者のみに伝える | 3. 高校生全員に伝える |
|------------------|--------------|--------------|

B-3 退所の前に行う自立支援について、貴施設で行うものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1. 1 人暮らしの体験（退所後生活体験支援） | 2. 料理や洗濯等の自立のための練習や講習会 |
| 3. 生い立ちや入所理由の振り返り | 4. 退所後の家族との関り方について一緒に考える |
| 5. 生活費や学費についてのシミュレーション | 6. 措置延長の制度についての説明 |
| 7. 施設のアフターケア体制の説明（どのような支援を受けられるか） | |
| 8. 支援団体（外部のアフターケア事業所、弁護士等）の紹介 | |
| 9. その他（ ） | |

B-4 高校卒業後の進学に対する貴施設の意向について、選択肢よりお選びください。（○は 1 つ）

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. リスクを伴う進学よりも、就職を強く勧める | 2. 児童が迷っている場合は、就職を勧める |
| 3. 児童が迷っている場合は、進学を勧める | 4. 基本的に進学を勧める → B-6 へ |

B-5 【B-4 で 1 ～ 3 を選んだ方のみ】 進学を積極的に勧めにくい理由にはどのような要因がありますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 個人の適性 |
| 2. 進学に向けた十分な学習支援を整備できないため。 |
| 3. 地域的に適当な進学先が見つからないため。 |
| 4. アフターケアの体制が十分に整備されていないため。 |
| 5. 高校卒業までに進学に必要な十分な貯金が困難であるため。 |
| 6. 経済的自立が遅れるため。 |
| 7. 貸与型奨学金等により借金を背負うリスクがあるため。 |
| 8. 奨学金等の情報が十分に集まらないため。 |
| 9. 中途退学のリスクが高いため。 |
| 10. その他（ ） |

B-6 進学を積極的に勧めるために必要なことについて、あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 奨学金に関する情報の充実 | 2. 自立支援専門相談員の配置 |
| 3. アフターケアを行う施設以外の機関との連携 | 4. 進学支援のための支援体制について他施設との共有 |
| 5. 他府県へ進学した場合、現地のアフターケア事業の存在 | |
| 6. 入学後の進学先との情報交換や連携 | 7. 進学に肯定的な施設の文化の醸成 |
| 8. その他（ ） | |

【学習支援の状況についてお答えください。】

B-7 中学生に対する学習支援の状況についてあてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. 学習塾の利用 | 2. 家庭教師の利用 |
| 3. 学習ボランティアの利用 | 4. その他（ ） |
| 5. 特に何もしていない | 6. 利用したいが学習塾等の資源がない |

貴施設の中学生の総人数とその内学習支援を利用している人数をお答えください。

中学生の人数 () 名
その内、学習支援を利用している人数 () 名

B-9 進学を目指す高校生に対する学習支援の状況についてあてはまるものをすべてお選びください。

1. 学習塾、予備校の利用
2. 家庭教師の利用
3. 学習ボランティアの利用
4. 通信教材の利用
5. 特に何もしていない
6. 利用したいが学習塾等の資源がない
7. その他 ()

B-10 令和4年度において、措置費における特別育成費補習費事業の利用状況について教えてください。

貴施設の高校生の総人数とその内特別育成費補習費事業を利用している人数をお答えください。

高校生の人数 () 名 → その内、特別育成費補習費事業を利用している人数 () 名

C) 施設への取り組み アフターケアの体制と支援

【施設におけるアフターケアの体制】

C-1 18 歳以上のアフターケアの役割を担う職員を決めていますか。(○は1つ)

1. 決めている $\longrightarrow$ C-1-1 $\wedge$ 2. 決めていない $\longrightarrow$ C-1-2 $\wedge$

C-1-1 どのような立場ですか。(複数回答可)

1. 自立支援専門相談員
2. (自立支援専門相談員ではない) アフターケア担当者
3. 退所前の担当者
4. 担当児童を持たない職員・管理職
5. その他 ()

C-1-2 決めていない理由は何ですか。(○は1つ)

1. 決めない方が多くの職員で担えるから
2. 特に必要がない
3. 適当な人材がない
4. その他 ()

C-2 アフターケアにかかる予算はありますか。

1. ある $\rightarrow$ C-2-1 $\wedge$ 2. ない $\rightarrow$ C-3 $\wedge$

C-2-1 「ある」場合は、予算の出所にあてはまるものすべてに○をしてください。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 専門職配置による措置費 | 2. 都道府県の加算 |
| 3. 施設の経常予算・特別予算 | 4. その他 () |

C-3 貴施設で実施されているアフターケアの内容についてあてはまるものをすべてお選びください。

(1～3の中から複数回答可)

1) 生活面のサポート

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 定期的な掃除・片付けなど生活の手伝い | 2. 料理の手伝い・食事の提供 |
| 3. 大掃除 | 4. 買い物や銀行、役所への付き添い |
| 5. 病気やケガをした時のサポート | 6. していない（あてはまるものがない） |

2) 経済面のサポート

1. 奨学金の手続き	2. 学費の振込み
3. 生活費の管理・予算立て	4. 預貯金の管理・通帳の預かり
5. していない（あてはまるものがない）	

3) 精神面のサポート

1. 定期的な訪問面談	2. SNS や電話による相談や連絡
3. 精神科や心療内科への受診の付き添い	4. 保護者との連絡調整
5. 進学先との連絡調整	6. していない（あてはまるものがない）

4) その他のアフターケアの内容をご自由にお書き下さい。

--

C-4 貴施設が所在する地域に社会的養護自立支援（アフターケア）事業所はありますか？

1. ある → C-5 へ	2. ない → C-6 へ	3. わからない → C-6 へ
---------------	---------------	------------------

C-5 貴施設が利用されている自立支援に関する事業の事業主体について、当てはまるものすべてをお選びください。

1. 都道府県等の自治体の直轄事業(児童相談所等)	2. 社会福祉協議会	3. 民間機関・NPO 団体等
4. その他（		）

C-6 アフターケア・サービス（社会的養護自立支援事業）を利用したり、児童に情報提供したことはありますか？

1. 常に利用している	2. 何らか利用したことや、児童に紹介したことがある
3. 利用したことはない	

C-7 (1) ～ (6) の制度について、利用状況をお答えください。

	1. 利用したことがある	2. 知っているが利用していない	3. 知らない
(1) 社会的養護自立支援事業	1	2	3
(2) 自立支援資金貸付事業	1	2	3
(3) 身元保証人確保対策事業	1	2	3
(4) 学生支援機構給付型奨学金	1	2	3
(5) 自立後生活体験支援	1	2	3
(6) 児童養護施設等の生徒への受験料等支援 (令和 5 年度より実施予定)	1. 知っている		2. 知らない

【進学先との連携について】

C-8 これまでに、貴施設から大学や短大、専門学校に進学した児童はいますか。

1. いる 2. いない → こちらでアンケートは終了です 3. わからない → こちらでアンケートは終了です

【C-8で選択肢「1. いる」と回答された方にお伺いします】

C-9 進学者本人のことで、進学先に相談や連絡が必要（連絡をしておいた方がよい）と考えたことはありますか。

1. ない → C-10 へ
2. 連絡をした方がよいと考えたが、していない → C-9-1 へ
3. 相談や連絡の必要があり、進学先に連絡をした → C-9-1 へ
4. 進学先から連絡を受けたことがある → C-9-1 へ

C-9-1 進学先へ相談や連絡が必要（連絡をしておいた方が良い）と考えた内容はなにでしょうか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 奨学金、保証人について
2. 住居・寮について
3. 単位や欠席など学修状況について
4. 当人の心身面の配慮について
5. その他（ ）

C-9-2 進学先のどの部署と連絡を取られましたか（取ろうと思いましたか）。

あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 入試関連の部署 | 5. 学生支援に関する部署 |
| 2. 所属する学部・学科等の事務室 | 6. 担当の教員・知り合いの教員 |
| 3. 実習関連の部署 | 7. 学生相談室 |
| 4. その他（ ） | |

C-9-3 進学先から、当人の個人情報について問合せがあった場合に、対応しますか？（○は1つ）

1. 本人の同意が取れている範囲で対応する（本人に同意を得ている）
2. 本人の同意の有無にかかわらず、本人のためになることであれば、問い合わせに応じる
3. 本人の同意の有無にかかわらず一切、対応しない
4. その他（ ）

【進学後の懸念】

C-10 (1) ~ (4) について、下記の選択肢の中からそれぞれについて、懸念点や問題点をすべてお選びください。

(1) 学生生活を送るうえで、進学した児童について懸念されることはどれですか。

1. 学力不足・単位が取れない
2. 遅刻・欠席などの出席状況が悪い
3. 留年・休学・退学
4. 学びへの興味の喪失、学習意欲の低下
5. 進学先や新しい環境になじめない・不適応
6. 友人ができない、対人関係のトラブル
7. 規則正しい生活の維持、一人暮らしの維持
8. 身体疾患・体調不良の問題
9. メンタルの不調・未解決の心理的問題
10. 精神疾患の受診、服薬の問題
11. トラウマ症状
12. 家庭環境の変化や親との関係悪化の問題
13. 課外活動の問題
14. 経済的困窮・生活や学費の工面の問題
15. 学費、保証人の問題
16. アルバイトの問題
17. その他（ ）

(2) 施設のサポートが必要になることがあると思われる問題はどれですか。

1. 学力不足・単位が取れない
2. 遅刻・欠席などの出席状況が悪い
3. 留年・休学・退学
4. 学びへの興味の喪失、学習意欲の低下
5. 進学先や新しい環境になじめない・不適応
6. 友人ができない、対人関係のトラブル
7. 規則正しい生活の維持、一人暮らしの維持
8. 身体疾患・体調不良の問題
9. メンタルの不調・未解決の心理的問題
10. 精神疾患の受診、服薬の問題
11. トラウマ症状
12. 家庭環境の変化や親との関係悪化の問題
13. 課外活動の問題
14. 経済的困窮・生活や学費の工面の問題
15. 学費、保証人の問題
16. アルバイトの問題
17. その他（ ）

(3) 専門家の支援（医療機関など）が必要と思われる問題はどれですか。

1. 学力不足・単位が取れない
2. 遅刻・欠席などの出席状況が悪い
3. 留年・休学・退学
4. 学びへの興味の喪失、学習意欲の低下
5. 進学先や新しい環境になじめない・不適應
6. 友人ができない、対人関係のトラブル
7. 規則正しい生活の維持、一人暮らしの維持
8. 身体疾患・体調不良の問題
9. メンタルの不調・未解決の心理的問題
10. 精神疾患の受診、服薬の問題
11. トラウマ症状
12. 家庭環境の変化や親との関係悪化の問題
13. 課外活動の問題
14. 経済的困窮・生活や学費の工面の問題
15. 学費、保証人の問題
16. アルバイトの問題
17. その他（ ）

(4) 進学先の大学等の支援が必要と思われる問題はどれですか。

1. 学力不足・単位が取れない
2. 遅刻・欠席などの出席状況が悪い
3. 留年・休学・退学
4. 学びへの興味の喪失、学習意欲の低下
5. 進学先や新しい環境になじめない・不適應
6. 友人ができない、対人関係のトラブル
7. 規則正しい生活の維持、一人暮らしの維持
8. 身体疾患・体調不良の問題
9. メンタルの不調・未解決の心理的問題
10. 精神疾患の受診、服薬の問題
11. トラウマ症状
12. 家庭環境の変化や親との関係悪化の問題
13. 課外活動の問題
14. 経済的困窮・生活や学費の工面の問題
15. 学費、保証人の問題
16. アルバイトの問題
17. その他（ ）

C-11 進学者本人の問題で、進学後に児童相談所が進学先と連携したことはありますか？

1. ない 2. ある

C-12 進学者のアフターケアに関する配慮、困難点など、ご自由にお書きください。

また、進学した措置延長児童の処遇上の課題等がありましたら、ご自由にお書きください。

--

2023 年度の大学・短大・専門学校等への進学者について、回答者ご自身のお考えをもとに無記名でお答えください。該当者がおられない場合は、直近の進学者についてお答えください。
(複数名いらっしゃる場合は、コピーしてご記入ください。)

高校卒業年度	[2023・2022・2021・2020] 年 3 月 高校卒業
卒業した高校について	1. 普通科・総合学科 2. 専門学科 3. 定時制・通信制 4. 高校卒業程度認定 5. その他 ()
現在の住居	1. 在籍の施設 2. 下宿・民間の寮 3. 進学先の学生寮 4. 自立援助ホーム 5. グループホーム 6. 家族や親族と同居 7. その他 ()
高校卒業時の措置解除	1. 措置解除した 2. 措置解除していない(措置延長) (措置延長の場合、解除の見通しはいつですか？) 1. 在学途中で措置解除の予定 2. 卒業まで 3. 解除時期は未定
進学先	1. 国公立大学 2. 私立大学 3. 短期大学 (国公立・私立) 4. 専門学校 5. その他 ()
入試制度	1. 一般入試 (共通テスト利用も含む) 2. 公募推薦入試 3. 学校推薦入試 4. その他の推薦入試 ※社会的養育在籍者に特化した入試制度 (1. 該当する 2. 該当しない)
進学決定の要因 もっともあてはまるものを 1 つお選びください。	1. 本人の強い希望 2. 職員の勧め 3. 保護者の勧め 4. 学校の勧め
進学の目的 もっともあてはまるものを 1 つお選びください。	1. 専門職志望など、本人に強い進学の意志があるため 2. 高校卒業よりも、安定した就職や収入が期待できるため 3. 具体的な目的はなく、やりたいことを探するため 4. 社会に出て自活するには、まだ本人に不安な点があると思われるため
受給・利用している奨 学金及び支援制度等 (複数回答可)	1. 日本学生支援機構給付型 2. 日本学生支援機構貸与型 3. 自立支援資金貸付制度 4. 民間 (社会的養育者対象) 5. 民間 (全学生対象) 6. 学校独自の奨学制度 7. 自立支援資金貸付制度 8. その他の支援制度 (自治体・民間団体等) の利用 9. その他 () 10. 利用していない

貸与型奨学金の月額受給について	1. なし 2. 20,000 円以上 3. 50,000 円以上 4. 120,000 円以上
家族や親族との関係	1. 大変良好な関係を維持している 2. 困った時には連絡が取れる関係である 3. 連絡先はわかっているが、積極的な交流やサポートはない 4. 家族や親族がいない・消息不明である 5. 所在地を家族に知らせられない (支援措置を利用し、所在地を家族に知らせないようにしている)
施設の職員から見て、当人が抱えていると思われる問題（複数回答可）	1. 被虐待経験がある 2. 不登校の時期があった（年間 30 日以上の欠席） 3. 身体的な疾患や不調がある 4. 心理的な問題をかかえている 5. 発達障害など、発達上の特性がある 6. 精神的な問題で受診歴がある
施設の職員から見て、学生生活を送るうえで当人の課題になると思われる傾向（自由記述）	
進学する児童のことで、進学先（学生部や入試部、教員、相談室など）に、問い合わせや相談、連絡等をしたことがありますか。	1. まったくない 2. 入学前に連絡をとったことがある 3. 入学後に連絡をとったことがある 4. 入学前から、現在に至るまで連携を継続している 5. その他（ ）
貴施設以外のアフターケアの利用の有無	1. ある 2. ない
社会的養護自立支援事業の利用の有無（複数回答可）	1. 生活相談 2. 医療相談 3. 法律相談 4. 利用なし
貴施設への入所時期	1. 幼児期 2. 小学校 3. 中学校 4. 高等学校

Ⅱ 進学先の情報（大学等への2次調査へのご協力をお願い）

貴施設から児童が進学した実績のある大学、短大等の名称を支障のない範囲でご記入ください。

この質問の目的は、本研究課題の2次調査に向けて、社会的養護経験者の受け入れ大学・短大等を抽出することです。貴施設に在籍した学生と連結するものではありません。また、2次調査も無記名のため、貴施設名が進学先に伝達されることも決してありません。

■ 回答欄（足りない場合はおそれいりますがコピーしてご記入ください。）

	大学、短大等の名称	学部・学科・専攻など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

■ 貴施設からの進学先に、傾向や特徴があればご自由にお書きください。（例、近隣の大学、教員等とつながりのある大学、遠隔地奨学金のある大学など）

--

Ⅲ インタビュー調査(3次調査)へのご協力をお願い

調査票へのご回答をありがとうございました。

差し支えないようでしたら、3次調査(インタビュー調査)への登録のご協力をお願いします。

ご登録いただきました施設には、1次調査と2次調査の結果の報告書を送付させていただきます。

3次調査は、2024年に10施設ほど実施の予定です。

※3次調査ご協力に関する回答方法は2種類あります。どちらか答えやすい方法でご回答ください。

QRコード②(Ⅲの回答)

パターン1: QRコード②を読み取り、オンラインで回答
(URL: <https://forms.office.com/r/rhDs0XGNgX>)



パターン2: 下記必要事項を記載のうえ、メールでご回答ください。

メールアドレス: mtanimukai@tamateyama.ac.jp

メールでの回答時にご入力いただきたい事項

1. 貴施設名
2. ご住所(郵便番号もご入力ください。)
3. 電話番号
4. メールアドレス
5. ご担当者様のお名前

※Ⅲの回答については、Ⅰ・Ⅱの調査票と内容を区別するために提出先を分けています。